

氷室

学習メール句会
(1)

メール句会の記録 (2018年4月、5月)

編集 尾池和夫

発行 氷室俳句会

人類はその発生から、太陽の光のもと、太陽の光の反射でものをみつめてきました。
それが、今では人工光源による、しかも液晶パネルでの透過光で見えています。

太陽の反射光で育った脳と、透過光で映画やテレビを見て訓練された娯楽を扱う脳とは役割が異なっています。

たまたま、印刷して反射光で読むと、そこに新しい発見があります。原稿を書いて印刷するとまた誤変換のを見つけるという体験で、私たちは脳の仕組みを理解します。

というわけで印刷しました。
ご参考になると幸いです。

2018年6月12日 尾池和夫
oike-kazuo@nifty.com

「氷室」学習メール句会（Ⅰ）

【0】序

和夫です。

「学習メール句会」（第1グループ）を始めます。

1. 参加者募集のお知らせした内容の要点を再掲します。

参加・氷室俳句会の会員であることが条件です。メールアドレスは、Ccで参加者全員に公開できるものをお使いください。

先着10名を第1回として募集しましたが、編集部などからの参加者が5名あり、それを除いて10名、合計15名となりました。

方式・定期的に、6句を主宰宛にメールで送っていただきます。

無記名でランダムに並べた投句集を、選句期限を付けて、CCで配信します。

選句は6句、その中の1句を特選として、選句結果を主宰宛に送ります。

並選1点、特選2点で集計した結果を、講評の期限を付けてCCで配信します
各自、全員宛に、選んだ句の評価を含めて、自由に意見を送ります。

期限が来たら、作者名のある句集をCCで配信します。

添削・定期的句会の他に、個別の添削指導を行います。

句会に投句した句、あるいは別の句について、指導を希望する句を
主宰宛に送ってください。即答はできませんが、順次返信します。

指導・主宰と編集部の数人が合評などに参加して句会を開催しながら指導します。

期間・6回を1サイクルとして修了します。

会費・特に設定しませんが、氷室基金に適宜ご協力お願いします。

2. 学習メール句会第一回の開催日程

4月2日（月）	第1回学習メール句会スタートのお知らせ
4月4日（水）	投句締切 当季詠（春） 6句
4月6日（金）	句集配信
4月8日（日）	選句締切
4月10日（火）	選句結果配信

4月14日（土） 合評締切

4月16日（月） 作者名入り句集配信

3. 以上の日程で詳細の説明はその都度、メールに記載します。ご質問、ご意見がありましたら、全員に返信する形で、このメールに返してください。以後、共通認識の元に進めますので、個人宛の個別メールを送らないよう、必ず参加者15名（自分を含めて）全員に送ってください。

ただし、投句、選句の場合には、全員宛ではなく、主宰だけに宛てて送ってください。よろしくお願ひします。

学習メール句会でご一緒させて戴く葉子です。

和夫から「俳句の基本と例句」のメモ書きのような資料が届きましたが、初めての俳句の用語も出てきます。

「どういうこと？」と、戸惑うことがあるかと思いますが、お読み頂いておくと、句会の中で、少しずつ判っていくと思います。

私も「初めて」からの経験者で、しかも不器用な初心者の時期が長く、モタモタといろんな「どういうこと？」にぶつかりました。なにか手がかりが欲しくて、手当たり次第に本を読みましたが、読んだときは「そうなんだ」と判ったつもりでも、句会で一句一句について、種々の意見を聞かされては、相変わらず??が続きました。

結局、実際に身について役立つのは、ひたすら辛抱で実践を繰り返してからでした。

そんな経験者の私が本を取り上げるのも気が引けますが、読まないより読んでおいた方が、後から「ああ、このことだ！」と気づく有利性があります。

お忙しい方ばかりですが、拾い読みできますので、ここに書いて置きます。選ぶのが困るほどの入門書が出版されていますが、実作として初心者向きの本を二冊。

①「俳句入門・再入門」 著者は安部元気・辻桃子「童子」主宰
(株) 創元社 (初版2005)

著者は「俳句は楽し」がモットーの方で、

初心者の質問に答える形の内容をやさしく簡単に書いてあります。

表記（俳句の書き方）や用語の説明などもあり、取っつきやすい本です。

古い本で店頭にはないかと思いますが、絶版にはなっていないと思います。

②「新版 20週俳句入門」 著者は藤田湘子「鷹」創刊主宰で故人。

出版社はKADAKAWA 1,500円 平成22年版は書店にあるかも。

結社の主宰としての経験から「俳句の奥はかぎりなく深い。その深さを追っかけていたら、

イロハの イから教えることが疎かになる。深さのほうには目をつむって、とにかくイロハだと腹をくくった」と俳句に対して厳しい著者ですが、俳句の基礎を着実にをモットーに書いた本です。

和夫も初心者の時に読んでいます。

いま急いで読む必要は無いと思いますが、思いついたときに書かせて頂きました。いずれにしても、句会で指摘されること、経験することが書かれているので、ご興味があればどうぞ。

お互いに知らなかったことに出合える楽しみが、俳句にはいつまでもあります。一つ一つ身に付いていく月日を楽しみにしましょう。基礎を知って、後は実践あるのみ。今は、とにかく五七五に慣れること、季語を知ること。すなおに詠むこと。幸い、身辺に春が満載の季節です。

かく言う私も、和夫のMailで、「エッ?! 4月4日締切! 6句!」と慌てています。

和夫さま、葉子さま、みなさま

惠です。

右も左もわかりませんが 春の勢いにまかせて、宜しくお願いします。

すみません、アドレスを変更したいと思います。(しばらくは併用します)

このメールに宛先を追加しましたので、このまま今後「全員に返信」で続けて頂けますたら幸いです。最初に申し出たメインの会社のアドレスだと、家で見られない時があるので、怒濤のスケジュールに仰天し、普段メインでないの方のアドレスにさせてください。ややこしいことですみません。

葉子さま、

温かいお励まし感謝です。実はわたしも「えええ、4日にもう?」・・・!

どうぞ宜しくお願いします。

【 1 】 第 1 回句会

氷室学習メール句会の皆さま

第1回句会 投句締切のお知らせ（4月2日）（月）

4月4日（水） 投句締切 当季詠（春） 6句

和夫宛に送ってください。

今後の予定（だんだん後送りの可能性あり）

4月6日（金） 句集配信

4月8日（日） 選句締切

4月10日（火） 選句結果配信

4月14日（土） 合評締切

4月16日（月） 作者名入り句集配信

第1回学習メール句会皆様

和夫です。

予定より早く句集を配信します。

添付ファイルは投句集です。これからの作業は選句です。

添付ファイルの読めない方はお知らせください。

また、投句した句と違って表記されている場合には、
至急お知らせください。

選句の仕方です。選んだ句をお知らせください。

句集の番号と、間違いを防ぐために、上五を書いてください。

番号順に書いてください。

選句は6句、そのうちの1句を特選として、番号の前に◎を付けてください。

和夫個人宛に送ってください。

選句の締切は4月8日24時です。

基本の基本ですが、

自分の句は選ばないことと、かならず6句を選ぶことです。

「選ぶ句がない」というのが、もっとも失礼な例です。

同じことを繰り返しますが、

ご挨拶や余分な記号や空白、余分の改行は入れないでください。

遅れたいい訳なども不要です。

先日、投句の作法を書きましたが、結局その通りで送ってくださった方は3名だけでした。

予定

4月5日(金) 句集配信
4月8日(日) 選句締切
4月10日(火) 選句結果配信
4月14日(土) 合評締切
4月16日(月) 作者名入り句集配信

和夫

- 1 境内に三人のみや花曇
- 2 さくら散るピンクの絨毯花ふぶき
- 3 安寧な春を迎える地中の根
- 4 貝寄風や拾ひし石をポケットに
- 5 石畳花びら描く溝模様
- 6 ほろ酔いの一人歩きや春の宵
- 7 やどかりの貌見せるまで掌
- 8 春待ちてあつという間に桜散る
- 9 さくら見て過ぎ行く春を感じけり
- 10 ほたるいか睨まれながら舌鼓
- 11 新入生ところ狭しと溢れをり
- 12 あそこにもこびとがいるよ万愚節
- 13 参道の行く人追い越す桜風
- 14 都をどり桜の帯していそいそと
- 15 光射す枝から順に芽吹きあり
- 16 ふと見ればビルの谷間の野蒜かな
- 17 マスクごし花の宴に酔いしれる
- 18 花びらに覆わる草も花つけり
- 19 早ざくら遅い桜も多様性
- 20 再会を埋める五時間春の酒
- 21 教え子を送るバス停暮の春
- 22 裁判所正邪を祓う花並木
- 23 戛々と靴音立てて新社員
- 24 先輩の教科書半額花曇
- 25 母と行く川沿いの道春の風
- 26 野の桜名もなき山を輝かせ

- 27 百日目卒塔婆小町の枝垂れかな
- 28 満開の花仰ぐ顔とりどりに
- 29 飛び交へるフランス言葉花篝
- 30 一步二歩三歩あるひて蜂に会ふ
- 31 加茂川に仰け反るさくら猛々し
- 32 大学に舞妓芸妓と新入生
- 33 はるかぜに誘われ書棚を作りけり
- 34 鹿ヶ谷花の他には昔松
- 35 今日人と逢ふ道しるべ紅椿
- 36 ここで吹く口笛とどく春の山
- 37 花冷えにあわてんぼうのやせ我慢
- 38 鬼気迫る赤子の声や春休
- 39 春雷に寸暇のありてまた一打
- 40 何処へ行く溪流漂ふ野の桜
- 41 観潮へこれ以上なく身をつつみ
- 42 北寄貝ビール白木のカウンター
- 43 春めきてただ歩きやる楽しさよ
- 44 菜の花に添ゆる想ひの一人酒
- 45 春が来て待ち遠しいは五月かな
- 46 いのししと笥めがけて鼻勝負
- 47 一次予選突破ならず日永し
- 48 雪に耐え旨み幾重にふきのとう
- 49 人の世は虚実の境四月馬鹿
- 50 出雲では焼いたのどくろ桜酒
- 51 富士山頂どれかと問うて春の雲
- 52 瞑想の覚めてまぶしき春光
- 53 調理場の調和がとれない四月かな
- 54 寛容に見守る余裕猫の恋
- 55 入社式歴史の上に新一步
- 56 送る花は桜と決めて街に出る
- 57 見返り桜人の感動今に次ぐ
- 58 哲学の道に雀の花散らし
- 59 おひたしの菜の花畑ほろ苦く／ほろ苦し
- 60 片腕と顔上げる人桜下
- 61 花朧黄金の月の光降り
- 62 入社する若人の未来と共歩き
- 63 送別の花持つ君は凜として
- 64 冬過ぎて綻ぶのは財布ひも
- 65 父と見た桜は今宵満開に
- 66 きらきらと突き立つ若葉追う脚立
- 67 さくらがね春ではなくて初夏運ぶ

- 68 フキノトウ味噌で和えつつ友を待つ
69 分水界には渋滞中の花筏
70 悲喜もあり衣脱ぎ捨て別つ春
71 雄猫の声真似てをり花の夜
72 デパートの地下に高値の野蒜かな
73 菜の花を黄色の皿にそっと盛り
74 ふくふくと甥っ子の頬長閑なる
75 切り枝の桜は散りぬ葉は出づる
76 入学のハレの主役も二親等
77 服飾もときとばかりにさくらいろ
78 栄転を匂はせてみる花だより
79 ツバメ来て床の新聞飛び越える
80 窓枠の影伸びる四月朝七時
81 出雲では桜見下ろす月兎
82 海苔弁当桜花びらひらり落ち
83 喜ぶは鯛の鯛かや桜鯛
84 花吹雪多言語乗せて川に落つ
85 清々と事業承継春の空
86 ペンギンと共に揺れたる花筏
87 真新し上着に降る降る桜降る
88 福江島椿辿りて波光見る
89 船べりの白き手掬ふ花筏
90 さくら去りひとえヤマブキ春爛漫
-

和夫さま

陽一選句です。よろしく申し上げます。

4. 貝寄風や
◎ 7. やどかりの
26. 野の桜
30. 一步二歩
56. 送る花は
65. 父と見た

以下同様に

選句結果と集計

番号	句	選者	得点
1	境内に三人のみや花曇		
2	さくら散るピンクの絨毯花ふぶき	年男特選	2
3	安寧な春を迎える地中の根	真紀子	1
4	貝寄風や拾ひし石をポケットに	陽一、和	4
5	石畳花びら描く溝模様		
6	ほろ酔いの一人歩きや春の宵	和夫、由	6
7	やどかりの貌見せるまで掌	和夫、恵	6
8	春待ちてあつという間に桜散る		
9	さくら見て過ぎ行く春を感じけり		
10	ほたるいか睨まれながら舌鼓	未緒、真	2
11	新入生ところ狭しと溢れをり		
12	あそこにもこびとがいるよ万愚節	和	1
13	参道の行く人追い越す桜風	春菜	1
14	都をどり桜の帯していそいそと	美鈴	1
15	光射す枝から順に芽吹きあり	佳代、年	2
16	ふと見ればビルの谷間の野蒜かな		
17	マスクごし花の宴に酔いしれる		
18	花びらに覆わる草も花つけり		
19	早ざくら遅い桜も多様性	和夫	1
20	再会を埋める五時間春の酒	苑子、美	3
21	教え子を送るバス停暮の春	恵	1
22	裁判所正邪を祓う花並木		
23	戛々と靴音立てて新社員	和	1
24	先輩の教科書半額花曇	葉子	1
25	母と行く川沿いの道春の風		
26	野の桜名もなき山を輝かせ	陽一、裕	3
27	百日目卒塔婆小町の枝垂れかな		
28	満開の花仰ぐ顔とりどりに		
29	飛び交へるフランス言葉花篝	和	1
30	一步二歩三歩あるひて蜂に会ふ	陽一、葉	4
31	加茂川に仰け反るさくら猛々し		
32	大学に舞妓芸妓と新入生	和夫特選	3
33	はるかぜに誘われ書棚を作りけり	裕子特選	2
34	鹿ヶ谷花の他には昔松		
35	今日人と逢ふ道しるべ紅椿	恵特選、	4
36	ここで吹く口笛とどく春の山	美鈴、年	2
37	花冷えにあわてんぼうのやせ我慢		

38	鬼気迫る赤子の声や春休		
39	春雷に寸暇のありてまた一打	佳代特選	5
40	何処へ行く溪流漂ふ野の桜		
41	観潮へこれ以上なく身をつつみ		
42	北寄貝ビール白木のカウンター	由里子、	2
43	春めきてただ歩きやる楽しさよ		
44	菜の花に添ゆる想ひの一人酒	佳代、真	2
45	春が来て待ち遠しいは五月かな		
46	いのししと筍めがけて鼻勝負		
47	一次予選突破ならず日永し		
48	雪に耐え旨み幾重にふきのとう	未緒、年	3
49	人の世は虚実の境四月馬鹿	苑子特選	6
50	出雲では焼いたのどくろ桜酒	美鈴	1
51	富士山頂どれかと問うて春の雲	真紀子	1
52	瞑想の覚めてまぶしき春光	恵	1
53	調理場の調和がとれない四月かな		
54	寛容に見守る余裕猫の恋		
55	入社式歴史の上に新一步		
56	送る花は桜と決めて街に出る	陽一	1
57	見返り桜人の感動今に次ぐ		
58	哲学の道に雀の花散らし	苑子、未	6
59	おひたしの菜の花畑ほろ苦く／ほろ苦し		
60	片腕と顔上げる人桜下		
61	花朧黄金の月の光降り		
62	入社する若人の未来と共歩き		
63	送別の花持つ君は凜として	由里子	1
64	冬過ぎて綻ぶのは財布ひも		
65	父と見た桜は今宵満開に	苑子、恵	3
66	きらきらと突き立つ若葉追う脚立		
67	さくらがね春ではなくて初夏運ぶ		
68	フキノトウ味噌で和えつつ友を待つ	美鈴	1
69	分水界には渋滞中の花筏	由里子	1
70	悲喜もあり衣脱ぎ捨て別つ春	苑子	1
71	雄猫の声真似てをり花の夜	葉子	1
72	デパートの地下に高値の野蒜かな	春菜	1
73	菜の花を黄色の皿にそっと盛り		
74	ふくふくと甥っ子の頬長閑なる	葉子	1
75	切り枝の桜は散りぬ葉は出づる		
76	入学のハレの主役も二親等		
77	服飾もときとばかりにさくらいろ		
78	栄転を句はせてゐる花だより	佳代、春	3

79ツバメ来て床の新聞飛び越える	裕子	1
80窓枠の影伸びる四月朝七時		
81出雲では桜見下ろす月兎	苑子	1
82海苔弁当桜花びらひらり落ち		
83喜ぶは鯛の鯛かや桜鯛	由里子特	2
84花吹雪多言語乗せて川に落つ		
85清々と事業承継春の空	和夫、春	2
86ペンギンと共に揺れたる花筏	和夫、恵	3
87真新し上着に降る降る桜降る	智子	1
88福江島椿辿りて波光見る	和	1
89船べりの白き手掬ふ花筏	智子	1
90さくら去りひとえヤマブキ春爛漫		

皆さま

陽一の選句と講評です。

7. やどかりの貌見せるまで掌

・特選にいただきました。引きこもり状態のヤドカリを手のひら(たなごころ)に乗せて、いつ顔を出すかしらとワクワクしている様子がとても可愛いです。

4. 貝寄風や拾ひし石をポケットに

・貝寄風(かいよせ)は大阪湾に吹く春の季節風。春の浜辺でふと気になる石を拾ったのでしょうか? 名作「おくりびと」のラストを思い出させます。

26. 野の桜名もなき山を輝かせ

・桜の句は過去の名句が多すぎて挑戦しづらいですが野の桜が山を輝かせたという表現が良いと思いました。

30. 一步二歩三歩あるひて蜂に会ふ

・一見、破調の句かと思うとそうでなく、ちゃんと五七五になっています。語呂も軽快で、いきなり蜂に出会った雰囲気がよく出ていると感じました。

56. 送る花は桜と決めて街に出る

・春は出会いと別れの季節。誰に何のために桜を送るのか想像したくなる句です。まさか桜の枝を折る決意をして街に出るのではないと思いますが。

65. 父と見た桜は今宵満開に

・今は天国にいるお父さんといつか見た夜桜の思い出がよみがえったのでしょうか。温かくノスタルジックなタッチの句です。

和夫さま みなさま 恵です。

講評は何回書いてもいいのでしょうか?、まず、おっちょこちよいが書いてみます。まとめて書きます。

4貝寄風や拾ひし石をポケットに

陽一、和特選、美鈴 4

貝寄風ということば存じませんでした。この石は山から川で運ばれてきて海で波に洗われ小石になったのだろうか、どこから来て、どこに連れて行かれるのか、偶然の行いだけど、時間と距離のスケールが淡々としているのに大きい。「貝寄風」をこれから使えるようになりたい。(恵)

21教え子を送るバス停暮の春

恵 1

定年退職した先生の自宅に見舞いにきた教え子を、元気なところをみせようとバス停まで送っていくのか、寂しくて別れがたくて送るのか、春なのにもものさみしいところがいい。ただ、「暮の春」がひっかかる、「春の暮」の方がすっきりするのでは？。(恵)

35今日人と逢ふ道しるべ紅椿

恵特選、未緒、真紀子 4

「人」は誰だろうか。恋人か、生き別れの父だろうか、想像をたくましくする楽しさと、真っ赤な椿の視角効果が色っぽい。椿はたくさんでなく、1輪だけ咲いていて欲しい。(恵)

65父と見た桜は今宵満開に

苑子、恵、陽一 3

失礼ないい方すると、ベタな句かもと思う(ごめんなさい)。でもやはり 亡き父恋しと年に一度位はせつなく溺れてみてもいいかなあ。(恵)

86ペンギンと共に揺れたる花筏

和夫、恵、葉子

これは好きな句。水族館か、下からガラスの水槽で見上げる花筏。もしかしたら水からあがったペンギンの頭に花びらの一つもついていたら愉快。(恵)

以上。

(こんな妄想言いたい放題でいいんでしょうか?)

皆さま

真紀子と申します。

初心者ですが、宜しくお願い致します。

講評です。

3 安寧な春を迎える地中の根

チューリップでしょうか？立派な花を咲かすことが出来、土の中で、ほっとしている根の姿を想像し、温かい気持ちになりました。

10 ほたるいか睨まれながら舌鼓

常々、ほたるいかの白眼が気になっており、睨まれると表現されたのが、お上手だと思いました。あの目に睨まれても、やはり春の香りがして、美味しくて食べたくなりますね。

35 今日人と逢ふ道しるべ紅椿

何だかんだ意味深な感じもする句ですが、お会いするのを、椿を愛でながら楽しみにされている様子が伝わって来ました。

44 菜の花に添ゆる想ひの一人酒

春の夜のひとり酒に菜の花を添えられることで、艶やかに感じられる優しい句だと思いました。

51 富士山頂どれかと問うて春の雲

春の雲になられた（乗られた？）気持ちになられて、富士山を探されているのでしょうか？ 少しわからなかったのですが、スケールが大きくて楽しい句だと思いました。

◎ 58 哲学の道に雀の花散らし

特選とさせて頂きました。

哲学の道の桜、見事な桜を、雀の花散らしで表現された、目の付け所も素晴らしいと思いました。

春菜です。宜しくお願ひ致します。

13 参道の行く人追い越す桜風

桜風という季語はないと思うのですが、桜の花びらが風によって歩く人達を追い越す景色かなと感じました。

普段は見えない風の行方がこういう形で見えてくる、動きのある中の一瞬を捉えた感じが好きでした。

30 一步二歩三歩あるひて蜂に会ふ

蜂に会うという落ち？ が面白く好きでした。本当にこの頃蜂が増えてきたなと感じていたのです。

49人の世は虚実の境四月馬鹿

人の世は…とはっきり言われて、最後の季語で可愛くなるような印象を持ちました。

四月一日に限らず、人の世は虚実の境なのでしょうけど、四月馬鹿と組み合わせるとぼけた感じがいいなと思いました。

72デパートの地下に高値の野蒜かな

先月吟行中に野蒜を見つけたので皆で引き抜いて、夕食会場で調理してもらい美味しくいただきました。

その野蒜がデパ地下で高値だったら嫌だなと思いました。

◎78栄転を匂はせてゐる花だより

テレビドラマのワンシーンのような、手紙を出した人と受け取った人の微妙な感情が出ているようで好きでした。

85清々と事業承継春の空

春というと卒業や合格などを思い浮かべることが多かったのですが、大人な春を迎えている方もいるよなと思いました。

全て終わって空を見上げたのかなと思うと、どんな思いになったのかなど想像がふくらみました。

以上、春菜の選評でした。

和（かず）です。

◎ 4 貝寄風や拾ひし石をポケットに

貝殻を拭き寄せるほどの強い季節風のなか、歩く→立ち止まる→石を拾う→歩き出す、という一連の映像が浮かびました。風も、人も、動いている。そこが好きです。

12 あそこにもこびとがいるよ万愚節

エイプリルフールの句が二つあり、どちらも取りました。こびとがいるよ、という子どもの嘘なのか、嘘を仕掛けるこびとがあちこちにいるのか、愚の文字とこびとが相性がよいように感じました。

23 戛々と靴音立てて新社員

新しい革靴の音を、戛々という漢字にしたところに、初出勤の緊張感と決意があらわれているように思いました。

29 飛び交へるフランス言葉花篝

夜桜を照らす篝火を囲む人々の姿ははっきりとはしなくても、聞こえて来る言葉でフランスのかたたちだとわかる、と読みました。ヴィラ九条山のパーティーだったのでしようか。

みなさま 葉子です。

たのしい作品を見せて頂き、ありがとうございました。私が頂いた作品の選評をお送り致します。

これからの私の書き方について説明させて下さい。

(他のメール句会で、お互いが読みやすいように統一して使っていますので、お許しを)

①

★印は、今後、みんなが覚えておく必要があることを書きます。しっかり記憶、記録して他人事とせず、一つずつ身に付けて頂ければ幸いです。

②

・・・は、短く、簡潔を心がけて、私の鑑賞文、感想です。

③

→ は、間違いを正したり、添削の例です。

もし、私の添削例がお気に召せば、投句に使って下さってOKです。俳句は、作品が直されていても「原作者のもの」が原則ですから。

以上、よろしくご解読下さい。

.....

■第1回学習メール句会選評／葉子

◆6 ほろ酔いの一人歩きや春の宵

・・・暮れなずむ宵を早々とほろ酔いきげん。。しかも一人歩きとは。。いささか惻々とする場面ながら、「春の宵」の季語で、ネガティブな雰囲気が消えました。季語の力ってすごいね！

★俳句は愚痴をいう詩型には向かず、なにごとも「ポジティブが佳し」で詠みましょう。

★「酔い」は、歴史的仮名遣いでは「酔ひ」です。終止形「酔ふ」はハ行活用形だからです。

(正) → ほろ酔ひの一人歩きや春の宵

◆24 先輩の教科書半額花曇

・・・教科書半額で先輩から買う話はつとに有名ですが、俳句として見る事がなかったことと、助詞「の」だけで、すべて漢字なのに、硬い感じが無い点が良かったです。ただし、「教科書半額」と中八ですね。これを解消するには、

→ 先輩の教科書半値花曇

★中八（8音）は避けましょう。必ず中七（7音）に収めること。

特に初心者は絶対ダメと思って下さい。

困ったら、言い換える言葉を探しましょう。

◆◎30 一步二歩三歩あるひて蜂に会ふ

・・・新鮮な感覚の句で、下五の着地が良いです。作者はたぶん、木の傍か軒端へと、突然動いたのでしょうか。もしかすると、軒で巣作りをした蜂に出くわしたかな。蜂の方がびっくりで飛び立った雰囲気です。作者はさほどビックリしていない。。理由は「会ふ」だからです。蜂に突然遭遇した感じを出して、「遭ふ」が迫力があるのでは？ 漢字は、意味を一字で使い分けられるので侮るべからずです。

歴史的仮名遣いについて、

★終止形ハ行四段活用、「会ふ」「遭ふ」は正しくて○です。

★終止形「歩く」は四段活用、正しくは連用形「歩いて」が正しいです。

(正) → 一步二歩三歩あるいて蜂に遭ふ

作者が「あるいて」と平仮名書にしている意図は、推測するとたぶん、一步二歩三歩と「歩」の漢字が重なるので、さらに「歩いて」を避けたのではと。でも、字面で読んでみると句意に対して、何となく間怠くありませんか？ 俳句は短いので、一気呵成的なリズム感が大事です。水前寺清子みたいですが、

→ 一步二歩三歩すすんで蜂に遭ふ

文法的には「進みて」ですが、撥音便にして「進んで」が、この場合は佳いように思います。

→ 一步二歩三歩うごいて蜂に遭ふ

等々、この4音の詠み方は、いくつか考えられますね。

71 雄猫の声真似てをり花の夜

・・・あの啼き声を真似て遊んでいる人は誰？

「恋猫」の季語を避けて、わざわざ「花の夜」の季語の情緒にのり酔狂な！です。

私なら「雄猫のこゑ真似てをり花の夜」と「声」の表記を平仮名にします。

★「をり」は正解○です。「居る・おる」は、ワ行の「を」になります。

74 ふくふくと甥っ子の頬長閑なる

・・・かわいい?つぺたの男の子。。もうすぐ端午の節句を迎える嬰兒の頃でしょう。

★表記は「甥っ子」と大きな「つ」を書きましょう。歴史的仮名遣いを使う「氷室」などは、平仮名の時の拗音、促音は大きく書きます。

カタカナの時は、その限りに非ず。例えば「チューリップ」「ブリュッセル」のように。

(正) → ふくふくと甥っ子の頬長閑なる

86 ペンギンと共に揺れたる花筏

・・・動物園で桜満開。ペンギンの池に桜吹雪が花筏を作っている。ペンギンが泳ぐと一緒に揺れてしていると。楽しい視点です。でも、こんな可愛く楽しい景色が、「共に」では花筏の使命感みたいな硬さにならないかしら？

→ ペンギンが動けば揺れて花筏

→ ペンギンと一緒に揺れて花筏

→ ペンギンの動きに合はせ花筏

→ ペンギンの動きにあはせ花筏

(漢字の限定で「動きと花筏」がクローズアップします)

OneStep、TwoStep、ThreeStepとよりよい例の比較で並べて見ました。

以上、ありがとうございました。

・・・・・・・・

文法的な★が多くなりました。これはよくあること。。誰しもです。

私も句会で恥をかいて1つ1つ身につけてきました。

だって、古文の時間は昼寝の時間。。テストや受験が済めば忘却のかなた。

しかも半世紀以上も前の話。俳句を始めて?! のおかげです。

いずれ活用形での説明も必要でしょうけれど、最初から覚えること、気にすることが多いと、それに気を取られて俳句がダウンします。

必要に応じて今回のような★を入れますから、取り敢えず、★を丸覚えして行って下さい。

そして俳句を作るときは、気にせず、臆せず、伸び伸びと作って頂ければと思います。

なお、少し間隔が空きますが、別途のメールでその他の句についても、少しずつ感想をお送り致します。

みなさま なかなかやるなあ。楽しみました。

葉子

苑子（すずきそのこ）です。どうかよろしく願いいたします。

20 再会を埋める五時間春の酒

半世紀をすでに生きた私と若い方とでは、受け取ったイメージがきっと違うかと思うのですが、私が受け取ったイメージは10年、20年ぶりの再会。それを埋める5時間にはきっとそれぞれの人生が滲み出ていることでしょう。それを「春の酒」でくくっているところにしびれました。

◎49 人の世は虚実の境四月馬鹿

この一句だけで、一気に天から人間世界を見下ろしたような心地になりました。初めての感覚。感激です。

58 哲学の道に雀の花散らし

桜の木の下に、花卉ごと花が落ちてくる。ああ、雀かあ。と思ったあの瞬間が蘇りました。雀も桜を喜んでいる、そんな春の暖かさが伝わってきます。

65 父と見た桜は今宵満開に

20の句もそうですが、私はその人の人生が見えるような句が好きなんだとつくづく思いました。

70 悲喜もあり衣脱ぎ捨て別つ春

この春長く勤めたところを退職したこともあり、新しい一步を踏み出す感覚が好きで選びました。衣脱ぎ捨ては、それまで着ていた厚手の衣類を脱ぎ、軽々と次の世界に飛び込むようです。

81 出雲では桜見下ろす月兔

今年の春は私も夜桜を楽しみました。ちょうど満開のタイミングで現れた真ん丸のお月さま。作者はあのお月さまを出雲の桜でご覧になったのですね。その様子がビジュアルに目の裏に浮かび、心に残りました。

未緒です。

皆さんの俳句から、感じたことを感じるままに、文字にしてみました。ありがとうございます。

やどかりの貌見せるまで掌

人の手に取られて、頭をひっこめたヤドカリが、「もう無事かな？」と思ってまた顔を出すまで、ずーっと手のひらをお椀の形にして、見守ってあげてたのかなあ。・・・そんな、あったかくも、ちょっとユーモラスにも感じた句でした。

ほたるいか睨まれながら舌鼓

春といえばホタルイカでしょう！　とってしまった私。酢味噌よりわさび醤油で、ビール党の私ですがやっぱりここはキリっとした日本酒かな、と。そこまで思わされてしまいました！

野の桜名もなき山を輝かせ

日ごろ何も主張することのない、だからこそあたたかな里山の風景が、このときばかりは一変して。それでもなおきつと、緑や、枯れた枝の色の方が勝るかもしれないくらい、飾らない山桜の様子がありありと目に浮かびました。

今日人と逢ふ道しるべ紅椿

こんな恋路を歩いてみたい。こんなしっとりとした句が似合う方はいったい、どんな方かしら。。

雪に耐え旨み幾重にふきのとう

早春の、キラキラと輝くザラメ雪の中から姿を表すふきのとう。こんなに苦労して、ようやく輝く黄緑色を見せてくれながら、私たちの「旨み」になってくれて、ありがとう。感謝していただきます。

哲学の道に雀の花散らし

哲学の道にはらはらと落ちはじめた淡いピンクの花びら。その上に雀が、いかにも楽しそうに、あどけなく、チュンチュン跳ね回っている様子が、浮かびました。「花散らし」の一言で、そこまで表すことができちゃうって、すごいなあ。って、思った句でした。

こうした機会をいただけて、ありがたく幸せです。はじめて俳句を「ちゃんと」読み、味わって、その味わいを文字にしてみることの楽しさをまた、味わいました。ありがとうございます。

佳代です。よろしくお願ひ致します。

15 光射す枝から順に芽吹きあり

芽吹きを「光射す」順に、と詠まれたのがとても素敵だと思いました。どこがよく光が当たるか、毎日見て知っておられたのでしょうか。

32 大学に舞妓芸妓と新入生

造形大は入学式の時期、新入生だけでなく、都をどりの舞妓さんたちでとても賑わっていました。着物姿の方が多くと一段と華やかに感じます。

39 春雷に寸暇のありてまた一打

リズムがとても良くて好きです。寸暇、と一打のコントラストが心地いいです。

44 菜の花に添ゆる想ひの一人酒

しっとりした句です。一人酒を寂しく感じさせず、素敵だなと思います。

49 人の世は虚実の境四月馬鹿

四月馬鹿、なかなか上手く俳句に詠むのが難しいと思っていたのですが、それが巧みにはまっているなと思いました。

78 栄転を句はせてゐる花だより

おめでたい俳句で、嬉しくなります。

みなさま 葉子です。

私が選に頂いき選評した作品以外についてお節介な私のコメントをお送りします。一度にたくさんだと読むのがたいへんだし、私の時間も細切れの身、何回かに分けてお送りします。

添削例は、お気に召せばそっくり作者のものとなりますが、添削例からヒントを得て、ご自身で推敲され、ご自分が納得の作品に直して下さいでも結構です。

ただし、これは権威主義が苦手な和夫、葉子2人の考え方と、ご承知置き下さい。世の中には、添削したのに「勝手に改変した」と受け入れがたい方も居ますのでね。

■葉子のコメント・・・番号順ではないことをお許し頂き。

10 ほたるいか睨まれながら舌鼓

・・・せっかく美味しい旬を作られたのに、申し訳ないけれど、蛸烏賊の生には旋尾線虫という寄生虫がいる可能性があり、たいがいは火を通した料理方法です。単純な酢味噌で食べる方法も茹でていますよね。しかも私の認識では、普通は目玉も取るんですけどねえ。目玉がグリッと睨んでいると。

それはそれとして、

★俳句は「すべてを言って終わらない」ことも大事で、言わない部分で、読者の想像や推測を引き出す・・・これが作品の余情として大切なコツです。

→ 箸先を睨まれながら蛸烏賊

箸先を言えば、作者は舌鼓で美味しく食べていることが想像できます。

11 新入生ところ狭しと溢れをり

・・・新入生は園児から大学生まで。。たぶん大学の新生と想像は付きますが、それと判るような言葉が必要かと思えます。この様子も連休明けから、だんだん落ち着いてくるのが大学。

→ キャンパスに新入生の溢れをり

12 あそこにもこびとがいるよ万愚節

・・・面白い着眼ですが、「あそこにも」が曖昧で読者に映像が浮かばないですよ。それと「こびと」も気になります。妖精の「こびと」のことだろうと思えますが、

日本語には別の意味の「こびと」があり、差別用語です。そんな勘ぐりを与えない配慮は、俳句でも、とても大事なことです。

①→ 楠大樹に妖精ゐると万愚節

②→ 榆大樹に妖精ゐると万愚節

・・・①は、つい京大のシンボルツリー大楠を思ったのですが、妖精はヨーロッパ的、そこで②の「榆」これも大樹になりますからね。

★上五が上六になりますが、上五の字余りは許されます。ここでは助詞の「に」は必要不可欠です。

日本なら、古い家に「やなり」、古い道具に「付喪神」、沖縄のガジュマルの精霊はキムジナー等々が思い浮かび、妄想を膨らませて、

③→ 妖精のこびとゐるとふ春落葉

③のポイント

★春落葉、夏落葉は常緑樹が古葉を落として新しい葉に変わる季語。落葉樹の冬の季語の「落葉」よりハラハラと長い間の落葉です。

★「妖精のこびと」と断定すれば誤解は受けずです。

★「居る・いる」の歴史的仮名遣いは「ゐる」です。

「居る・おる」が「をる」となることと同じです。

★「とふ」は「という」の古語です。同じ意味で「てふ」もあります。

13 参道の行く人追い越す桜風

・・・A. 桜に風のあり、それが参道を行く人を追い越しているのでしょうか？それとも、B. 参道を行く人を作者が追い越している。。桜風の中を。でしょうか？ この句のママだと、曖昧で映像の焦点が絞り切れず、です。

考え直す問題点は、

①参道を「行く人追い越し」と中八（8音）になってしまいました。

②「桜風」、これは季語ではないはずですが。お持ちの歳時記には季語でしたか？

「桜まじ」は晩春のなま暖かい風の季語ですが。

③「追い越す」は「追ひ越す」。終止形「追ふ」でハ行活用だからです。

★また出てきましたよ「ハ行の活用形」。

終止形が「～ふ」となるハ行の活用は要注意です。

★活用形抜きで確認する方法は、辞書を引いてみて下さい。

例えば広辞苑で「追う」と引くと、「オフ」と書かれていますね。

これが歴史的仮名使い（古語の表記）です。動詞なら終止形で書かれています。

作品に話を戻しまして、

A. 参道の行き先の、その後ろから桜が散って来る。

「桜まじ」も吹いていることでしょうし。

→ 参道の人追ひ越して桜散る

B. 作者が、また誰かが参道を行く人を追い越すなら「参道を行く人」となります。

例えば

→ 参道行く人追ひ越して桜守

下五に季語が入るわけですが、上五中七に対して必然性の感じられる季語でないと、曖昧な句になってしまいます。そこで「桜守」にしてしまいましたが、適切な季語があれば作者のことで良いです。

★上五が「参道行く」と六音ですが、「上五の字余りは可」と許容でしたね。

★「参道を行く」の「を」を省略することも、意味が通るなら俳句ではOKです。

これが散文と違う点です。

今夜は以上です。

東京から帰宅したばかりで時間切れになりました。

葉子

葉子さま

美鈴@京都大学です。

ご無沙汰しております。

愛のムチ、本当にありがとうございます。

うなりっぱなしです。

落ちこぼれないように頑張ります……

美鈴

みなさま 葉子です。

テーマ別に次々送信しますので、お時間の許すときにお読み下さい。

選評は、作者の名前が判る前に書く必要があり、いちどきになりますがお許し下さい。

第二段、今回は季語が複数有る句について考え直してみましよう。

俳句を初めた頃は、気づかずにしつつい季語を複数使ってしまうがちですが、

★季語は、一句に一つ。

特に初心者の場合は、この原則に従いましょう。

理由は季語が複数有ると、どこに焦点があるか分散して、写真ならピンボケ写真になるからです。

ただし、「原則」ですから、一概に言えない作品も名句として存在します。

これはかなり高等な詠み方ですから、後の話にします。

★面倒でも、これは季語かしら？ と、一つ一つ、その都度歳時記で確認しましょう。

その他の季語も知る良いチャンスです。

2 さくら散るピンクの絨毯花ふぶき

・・・「さくら散る」「花ふぶき」と春のこの時期の季語が二つ重なっています。

加えて、桜はほとんどがピンク。桜が散り花吹雪になれば、絨毯を敷きつめた様子になる・・・

これは誰でも知っている当たり前の景色です。この当たり前を当たり前に詠まないことがミソですが、それもこれからのこととして、少なくとも季語を説明しただけの詠み方はしない方が良いでしょう。

まず、季語をどちらか一つに絞りましょう。

その時は、なにが詠みたかったかをご自分に問い直して下さい。

そして、いちばん詠みたかったことに焦点を絞るんだと考えると良いでしょう。

例えば、

2 → 一木（いちぼく）の桜ふぶきのただなかに

只中に

たった一本の桜も、桜が散る盛りはみごとな「花吹雪」です。そんな一本の桜の真っ只中に作者は佇んでいる。と。一人かな？誰かと？作者はどんな感慨を受けたかな？と。

★作者は自分が読者になって想像して下さい。

読者は文字からだけでなく、そこに詠まれている景色を、作者の状況を想像して読んで下さい。

8 春待ちであつという間に桜散る

・・・「春待つ」は「待春」で晩冬の季語です。「桜散る」は春の季語ですね。

★季節の違う季語が重なると「季違い」と言います。「季重り」でもあります。

★「あつと」と「つ」は大きい字でしたね。

★「いう間に」は「いふ間に」でしたね。

ちょっと俳句らしく、

→ 待ちかねしがあつといふ間よ桜散る

待ちかねていたが、あつという間に桜散る。。としてみました。

9 さくら見て過ぎ行く春を感じけり

・・・「過ぎ行く春」は「行く春」という晩春の季語です。

→ さくら見て時過ぎ行くを思ひみる

★「けり」は過去形の詠嘆です。

この句は「さくら見て」いる現在進行形ですから「みる」か「をり」が妥当でしょう。

17 マスクごし花の宴に酔いしれる

・・・この季節「マスク」が必需品の方も多いけれど、「マスク」は冬の季語です。

★「酔いしれる」は「酔ひしれる」でしたね。

私の勝手な添削例ですが、

→ 酔ひしれて花見の席に疲れけり

こんなことはない酒豪かな？

→ 酔ひしれて花見続きのきのふけふ

★「きのふ」は「昨日」。「けふ」は「今日」

「昨日今日」と連日の花見に忙しい人。

表記も「昨日今日」と感じより仮名書きが味わいが出るように思いますけれど、いかが？

42 北寄貝ビール白木のカウンター

・・・「北寄貝」は春の季語、「ビール」は夏の季語。北寄貝と白木のカウンターで美味しそうな楽しそうな句にして見て下さい。

45 春が来て待ち遠しいは五月かな

・・・春が来ては「春来たる」で春、「五月」は夏の季語と思って下さい。

立夏が5月6日頃で、この日から「夏」、旧暦「五月・さつき」は新暦の六月頃です。

→ 窓開けて待ち遠しきは五月かな

46 いのししと笥めがけて鼻勝負

・・・「いのしし」は冬、「笥」は夏の季語です。

今ごろの笥は「春笥・しゅんじゅん「春の笥」です。判るけれど「鼻勝負」はねえ。。。。

48 雪に耐え旨み幾重にふきのとう

・・・「雪」冬、「ふきのとう」は春の季語です。

★「ふきのとう」の表記は「ふきのたう」です。

★「耐え」は「たへ」です。終止形が「耐ふ」のハ行です。

→ ふきのたう白き重みに耐へし味

雪は「白き」で想像出来る言葉として使えます。

★「耐へし」の「し」は過去形。「耐えた」の意味です。

67 さくらがね春ではなくて初夏運ぶ

・・・小学生になってみた句でしょう？

「さくら」は春。「初夏」は夏。

なお、「春ではなくて」の「春」は季語になりません。

★季語を否定している場合は季語にならないからです。

90 さくら去りひとえヤマブキ春爛漫

・・・「春爛漫」は「春闌く・はるたく」春たけなわのことと解釈出来ます。「さくら去り」と逃げていますが、「山吹」も春の季語。

★植物動物の名前は新聞等はカタカナ書ですが、俳句では漢字があれば漢字、漢字を使いたくないときは平仮名書にしましょう。

★「ひとえ」は「ひとへ」です

→ 早々にひとへ山吹の咲き乱れ

今年はこんな感じで山吹も早かったですね。少し視点を拡げて

→ 鳥こゑにひとへ山吹咲き乱れ

★「囀り」が季語の同じ季節を「鳥声」として、鳥たちも春爛漫になっている様子に。

★「声」は「こゑ」と平仮名書きでやわらかくしてみました。

19 早ざくら遅い桜も多様性

・・・これは二つのことを並べて、季重りとは言い切れない「並列の詠み方」です。
こんな方法もある例とします。
ただ、詠むならば、

→ 早咲きも遅き桜も・・・・この下五が勝負でしょうね。

83 喜ぶは鯛の鯛かや桜鯛

・・・「鯛の鯛」は鯛自体のことではなく、鯛の骨ですから季語は重なっていません。

今回はここまで。

葉子

葉子です。

今回は季語がないよ～がテーマです。

5 石畳花びら描く溝模様

18 花びらに覆わる草も花つけり

★「花」は桜の季語ですが、「花びら」は季語ではないのです。

・・・1句目は「花屑」とか、水の中なら「花筏」などの季語があります。

・・・2句目は、厳密に言えば「草の花」は秋の季語になります。

だから残念ながら、この視点は変えて花屑のなかに草の色を見せたら如何ですか？

22 裁判所正邪を祓う花並木

・・・桜並木だから「花並木」と季語にしたと思いますが、季語の拡大解釈でしょう。「桜並木」も季語と言えないと思います。

★目の前の季節感で季語と決めつけないようにしましょう。

季語は季語としての決まった表現がありますから、必ず調べる習慣を付けて下さい。

★「祓ふ」も八行です。ただ、この句意に合うかしら？

27 百日目卒塔婆小町の枝垂れかな

・・・「枝垂れ」を季語としたようですが、季語ではありませんよ。

小野小町と深草少将の「百日通ひ」がベースかなあと思われますが。なにが詠みたいかがなかなか意味深で添削の難しい句です。

63 送別の花持つ君は凜として

・・・送別の時期の花＝桜・・・でも季語には無理です。

花束にする春の具体的な花を季語にして、

→ ・・・・・・・・持つ送別の君なれば

77 服飾もときとばかりにさくらいろ

・・・「さくらいろ」は季語にならないです。

58 哲学の道に雀の花散らし

・・・これは危うい橋を渡る意思が見えます。

「花散る」の季語のバリエーションで、最近「花散らし」と、雨や風にも使われ、これは雀。でも季語としては危ういと思います。

しかも「雀の～」では、季語ではないという人もいるでしょう。「雀が花散らし」なら、まだしも。

34 鹿ヶ谷花の他には昔松

・・・この「花」も季語と言えは季語でしょうが、この句で季語として生きているでしょうか？

→ 桜咲く昔は松の鹿ヶ谷

★季語は刺身のツマではありません。

季語を刺身のツマに使うな！ と叱られます。

★一句の中で、「季語が生きているか」「季語が効いているか」が一番大事なことです。

14 都をどり桜の帯していそいと

・・・この句の季語は「都をどり」。「桜の帯」となると季語ではないのでOKです。

ただ、都をどりを詠んでいることは判りますが、舞妓さん総勢が桜の帯・・・そのことから「いそいと」はふさわしくないとしますよ。

観劇に来たお客さんが「桜の帯」もあり得ますから、その場合は「いそいと」も肯えますけれど。

桜柄の帯をしていれば、自ずと気分も丑鳥もいそいそとするでしょうね。
そう言って終わらない下五をご一考下さい。

以上・・・

季語って、しんどいなあ。。ややこしいなあ。。と思われたでしょうか？
でも、こうして指摘された季語を一つずつ自分のものにしていった結果は
季語が一句の果たす役割が判り、季語の重要性に気づき、
季語が一句の最大の味方になってくれることを実感する時が来ますよ。
「知らなかった！」と、季語との新しい出会いを楽しんで頂ければ嬉しいです。

葉子

葉子です。
第四段は、「ここが惜しかったなあ」の句について。

15 光射す枝から順に芽吹きあり

・・・ちょっと散文的ですね。それは「順に」の言い方です。

→ 光り射す枝から芽吹き始まりぬ

20 再会を埋める五時間春の酒

・・・いかにも四月頃の出来事です。ただ、「春の酒」は季語とは言えないです。

→ 再会の酒席五時間春の夜

21 教え子を送るバス停暮の春

・・・悪くないですよ。

★「教へ子」ですね。「教える」は「をしへる」ですから、終止形は「をしふ」。

どなたかが選評で季語「暮の春」より「春の暮」の方が、と書いていましたが、私も賛成です。理由は、

★「暮の春」は晩春の季語、即ち春の終わり頃の時節のことです。

「春の暮」は文字通り「春の夕暮」のことです。

同じく四季に渡り当てはまる季語なので書いて置きます。

★「暮の夏＝晩夏」「夏の暮＝夏の夕暮」、「暮の秋＝晩秋」「秋の暮＝秋の夕暮」

ただ、「冬の暮＝冬の夕暮」はよく使われる季語ですが、

「暮の冬＝晩冬」はあまり使われずです。同じ意味の別の良い季語があるから。

25 母と行く川沿いの道春の風

・・・良い感じですが。句意に季語が寄り添っています。

★「川沿ひ」です。終止形「沿ふ」。「添ふ」「副ふ」も同じ。

33 はるかぜに誘われ書棚を作りけり

・・・季語で、何かやろうという気持ちに誘われ共感する人も多いでしょう。

★中人になっています。「を」は省くことが出来る「を」で、削除します。

★「誘はれ」です。終止形「誘ふ」。

→ はるかぜに誘はれ書棚作りけり

36 ここで吹く口笛とどく春の山

・・・好きな句でした。ただし、「～で」のこの場合の使い方は口語であることと、「口笛とどく」ですから、口笛を吹いている状態は自明の理、不要の言葉です。

→ ここよりの口笛とどく春の山

★十七音しかない俳句は、意味が重複する言葉は出来るだけ省く。

これは俳句のコツ。簡潔に文章を書くときにも通じますが、俳句はもっと厳しく「要らない言葉は使わない」がコツです。

43 春めきてただ歩きやる楽しさよ

・・・ここでは「楽しさよ」が気分の共感を生んでいます。

★「感情語は出来るだけ別の言葉で表現する」

この俳句の要諦には反しています。

この「楽しさよ」は読者が感じること。

作者は「楽しさ」を感じさせる言葉で言い換えましょう。「歩きやる」の「やる」も気になる点ですが。

→ 春めきてただただ歩く風に添ひ

47 一次予選突破ならず日永し

・・・中七が六音で字足らずですよ。

→ 一次予選突破のならず日永し

→ 一次予選突破ならざり日永し

★拗音「きゃ」「きゅ」「きょ」などは一気に詠むから一音と数えます。

★促音「コップ」など、詰まる音は一音と数えるので、「コップ」は三音です。

★「ん」は一音と数えますが、音韻から字余りになっても気にならない音です。

★「日永」「日の永し」の傍題、「日永し・ひながし」は四音ですが、
「ひいながし」と五音として発音して読むことが出来る季語です。
秋の季語の「火恋し・ひいこいし」も同じです。

52 瞑想の覚めてまぶしき春光

・・・季語が「しゅんこう」で下五が四音になって惜しかった。

★「春光」の季語には「まぶしい」の意味が含まれていますから、
まぶしいは屋上屋になります。

→ 瞑想を解きて春光浴びにけり

なお、「瞑想の覚めて」ではなく「瞑想を解きて」でしょう？

65 父と見た桜は今宵満開に

・・・思い出が季語で鮮やかに。「見た」は口語、「見し」です。

→ 父と見し桜は今宵満開に

ここに書きますが、とても佳かった句です。◎の句です。

35 今日人と逢ふ道しるべ紅椿

→ けふ人と逢ふ道しるべ紅椿

これは良し悪しではなく、表記の違いの例として挙げさせて頂きました。

二つを比べて、違いは「今日」か「けふ」の表記の違いだけですよね。

なのに、二つの句の感じが違うと思いませんか？

こんなことも、一句の感じを変えることを片隅に入れて置いて下さい。

以下は作者が判らないながらも、俳句のことはわかっている方の句と推察します。

よってコメントは省略。

16 ふと見ればビルの谷間の野蒜かな

72 デパートの地下に高値の野蒜かな

葉子

葉子です。

今回はテーマ性は上げず「どうでしょうか？」と思った句について。

1 境内に三人のみや花曇

・・・桜の、花見の境内なのに3人しか来ていないことが詠みたいのですね。
それなら、「花曇」の時候の季語より、「桜」をきっちり詠みこめば「3人のみ」が活きてきます。

→ 境内に三人のみの桜かな

→ 境内に三人のみや桜咲く

3 安寧な春を迎える地中の根

・・・この春の安寧を地中の見えない根にも思いをそそいでいる。
視線がアミニズムで引かれますが。。。

→ 草木の根に安寧の春来たる

お判りのように「地中」要らない言葉ですよ。

★「草木の根に」としましたが、当然「草木の根も冬眠していた動物にも、地表のすべてのものにも」という意味が込められています。

つい「～も」と言いたくなりますが、「～も」は出来るだけ避けてある一点を詠むことで、「その他のものも」と読み手に委ねるのが俳句です。

26 野の桜名もなき山を輝かせ

・・・名もなき山を輝かす桜なら「野の桜」かしら？

→ 里ざくら名を持たぬ山輝かせ

どうしてこの詠み方にしたかは、みなさんでお考え下さい。

28 満開の花仰ぐ顔とりどりに

・・・思わず口を開けている自分に気づいたりして。
「顔とりどりに」は判るけれど、俳句としては面白くないです。

→ 満開の花に十人十色なり

「十人十色」は常套句ですから、出来れば避けたいので、

→ 満開の桜に多国語の上がり

29 飛び交へるフランス言葉花篝

・・・フランス語圏の観光客が多いですね。
送り替えの「交ふ」は○ですが、自動詞四段活用だから、他動詞下二段活用「飛び交へる」は適切でないです。

→ フランス語飛び交ふあたり花篝

31 加茂川に仰け反るさくら猛々し

・・・「仰け反る」が？です。枝が撓んでいることでしょうか。
桜の季語の本意に逆らって「猛々し」と詠まれた冒険心は買いますが、ちょっとね。

→ 賀茂川に枝差し揺るる桜かな

この程度にしましょうか？

★出町柳から上流は「賀茂川」です。

32 大学に舞妓芸妓と新入生

・・・造形大でしょうけれど、状況を知らない人には通用しない一句です。

37 花冷えにあわてんぼうのやせ我慢

・・・薄着して出たあわてんぼうの後悔は判りますが、
「あわてんぼう」が口語も子どもっぽくて。。

→花冷えや薄着の如何ともならず

★花冷や

季語の名詞の送り仮名はなくても佳いです。

例えば上のように。「氷室」では極力付けないようにしています。

理由は、短い俳句は一読、目でも読み下せてしまう短さです。

だから、内容もゴタゴタ言わない。重複する言葉は避ける等々Simpleisbestな詩型で、見た目もスッキリさせるためです。

38 鬼気迫る赤子の声や春休

・・・先ず上五におどろきました。赤子に「鬼気迫る声？」しかも「春休」の季語？です。

なにかで「火が付いたような泣き方」はありますが、「ゾッとするような恐ろしい気配」の意味の鬼気は、どう手を付けて良いか困りました。

40 何処へ行く溪流漂ふ野の桜

・・・まず、「何処へ行く」は「溪流」ですね？「漂ふ」は「野の桜」？でも、「溪流漂ふ」と読めてしまいます。しかも桜の花びらのことでしょうか、このままだと桜本体のことになりますこんな景色かな？

→ 散る桜この溪流と何処へ行く

多くなるので以下は別途のメールにします。

葉子

葉子です。No5の続きです。

41 観潮へこれ以上なく身をつつみ

・・・「観潮」は春の季語「渦潮」の傍題です。

鳴戸の渦潮を見に行くと迫力満点。潮風はしぶきになって濡れることもあるし、防御する服装に身を固めているのでしょうか。

44 菜の花に添ゆる想ひの一人酒

・・・「菜の花」の料理で「ひとり酒」しんみり飲んで居られるでしょうけれど、「添ゆる想ひ」が思わせぶりです。

短歌なら七七で説明があるでしょうが、それが無い俳句は、思わせぶりではなかなか成功しません。

→ 菜の花の菜に一人のけふの酒

★作者のことをあれこれ想像するのは読者の権利と責任。。

作者は状況をきっぱりと言い切って、後は読者の読みに任せる・・・これが俳句です。

★菜の花だけだと料理にはなりませんので「菜」お菜としました。

★「添ふ」で、下二段活用連体形「添へる」です。「想ひ」は○です。

49 人の世は虚実の境四月馬鹿

・・・たしかにそうと共感しますが、俳句は「観念的」と言って観念の句を嫌います。

★観念的な詠み方を避ける工夫をしましょう。

この句の場合は「は」と決めつけをせずに。

→ 人の世の虚実のあはひ万愚節

「あはひ」は「間」です。

50 出雲では焼いたのどぐろ桜酒

・・・「のどぐろ」は季語か季語でないか。。と産地では季語にしようと詠んでいるようですが、今のところ一般的歳時記では見かけません。

よって「桜酒」を季語にされましたが、これは無理です。

また、出雲と固有名詞で限定していますが、これも無理でしょう？

だって焼いたノドグロは、良し悪し値段は別として、どこでも食べられますもの。

★固有名詞を使う場合は、「ここぞ」と固有名詞が効き目のある場所として使うこと。

→ のどぐろを焼いて出雲の花見酒

★「焼きて」が本来の活用ですが、イ音便も可能で「焼いて」と、この場にふさわしい方にしました。

51 富士山頂どれかと問うて春の雲

・・・新幹線から富士山の全容がくっきり見えたときはラッキーと幸せな気分になります。

この句は霞もあり、雲も多いこの時期を言い得ていますが、俳句に慣れた方と推察するので、バスします。

俳句になれていると思う理由は、「問うて」です。

★ハ行「問ふ」の連用形は「問ひて」ですが、ウ音便を使って一句をやわらかくしているからです。

53 調理場の調和がとれない四月かな

・・・中七の意味にあれこれ思いを巡らしました。

季語から見て、新人が入ってきたり、板長が変わったりして、スムーズにことが運ばない調理場のことかなあ。。。それとも。。？

→ 調理場の人変はりたる四月かな

この中七で「調和がとれない」調理場の仕事がギクシャクしていることを読者が想像してくれます。

54 寛容に見守る余裕猫の恋

・・・猫の恋の騒ぎを「寛容に見守る」「余裕」のある作者。。
そこまで詠む作者の心境を探り探り。。。いつもは神経に障るあの声も。。。？

→ 猫の恋に今宵はさほど気にならず

55 入社式歴史の上に新一步

・・・毎年新社員を受け入れ事業を発展させているだろう作者と推測しました。
ただ、「歴史の上に」は一般論としては大仰な言い方かと思います。

→ 新しき一步を加へ入社式

★「加へる」です。

単に新年度を迎えた、新社員を迎えただけでなく、なにか改革したのでしょうか。。と読者は想像します。

56 送る花は桜と決めて街に出る

・・・これは送別の花でしょうか？
ちょうど桜の時期だからと決めてゐるのは判りますが、「街に出る」が曖昧です。送別を兼ねてお花見に出たのでしょうか？

→ 送別の集ひとしたる花見かな

★「集ふ」で、これもハ行だから「集ひ」です。

57 見返り桜人の感動今に次ぐ

・・・「見返りの桜」は愛媛の石出寺にある桜ですね？
このネーミングになった故事もあるようですが、後半が観念的で、作者の感動を想像しても、読者に伝わってこないように思います。

→ 世に古りし見返り桜いまに継ぎ

藩侯の時代の桜が守られて、元の幹は死しても今に至っているらしいので、このように詠んで見ました。

59 おひたしの菜の花畑ほろ苦く／ほろ苦し

・・・おやおや「菜の花畑」が「ほろ苦し」？

→ 菜の花のお浸し美味しほろ苦し

「し」の音韻を重ねて楽しい句にしてみました。

★俳句はリズムです。五七五がリズムよく流れることが大事です。

★推敲するときには、自分の声で、声に出して読んでみて下さい。

芭蕉は「舌頭千転」と言いました。

すらりと、すっきりと読み下せれば、ほぼ成功しています。

60 片腕と顔上げる人桜下

・・・なんだかアクロバット。。。この通りにやってみると、どんなポーズか判りますが、桜を愛でている人の、滑稽な姿の仔細に詠まなくても佳いのでは？
でも、せっかくですから、

→ 手を伸べて桜見る人仰ぐ人

61 花朧黄金の月の光降り

・・・朧夜の桜に黄金色の月の光が降りそそいでいる。。。きれいで幻想的な風景ですが、俳句としてはモタモタしてしまいました。

→ 月光のこがねに花の朧かな

62 入社する若人の未来と共歩き

・・・新入社員を受け入れて、その将来への責任をしっかりと自覚しておられる作者の矜持が窺えます。こんな経営者ばかりだと働きやすい社会になるのにね。

→ 新社員の未来へ共に歩きたく

64 冬過ぎて綻ぶのは財布ひも

・・・たしかに！言い得ていますが、川柳の域だわ。

→ 春なれば出歩く出費多くなり

やっぱり川柳だわ。ゴメン！

66 きらきらと突き立つ若葉追う脚立

・・・「若葉」は初夏の季語です。それは良いとして、若葉はきらきらしているものです。しかも芽吹き of 勢いで突き立つようなさまもあります。春の季語に「剪定」がありますから、脚立はそのためでしょうね。でも、若葉している木を切るかしら？

→ 突き立つて若葉のなかに脚立あり

突き立つのは脚立、作業のために若葉の中に突き立っているとしました。

68 フキノトウ味噌で和えつつ友を待つ

・・・蕨味噌は美味しい！でも、上五中七までが「蕨味噌」の季語のママですよ。

→ 念入りに蕨味噌作り友を待つ

69 分水界には渋滞中の花筏

・・・流れが別れるところは花筏をなしている花屑も滞りがち。硬い上五中七の言葉を花筏らしくしましょう。

→ 水分かれゆくに留まり花筏

70 悲喜もあり衣脱ぎ捨て別つ春

・・・作者に何があったんだろうと思わせて、着ている服を脱ぎ捨てるのは豪快。。しかも「別つ春」で??です。恋人と別れる決心にしては大胆な表現。でもね、俳句ですから、

→ 喜びも悲しみも捨て春別つ

「春別つ」の表現が季語としてちょっと困りますが。。

→ 春なれや来し方別つことにせぬ

春だからだろうか。過去から別つことにしよう。。と私の妄想です。

まだ残りがありますが、ここで一旦切ります。

葉子

葉子です。続き。。これが最後です。

私も締切に追われる身、時期を逸してもいけないし、今日ならとドンドン送信していますが、たくさん書いたし★もいっぱいですが、うんざりを我慢して少しずつお読み下さい。

その上で、

★読んで判ったことも直ぐに身につくことは稀です。繰り返しです。

★読んで判らなかつたことはいずれ判ります。焦らずに。

★こんな繰り返しを続けることで身につけてきます。

73 菜の花を黄色の皿にそっと盛り

・・・どうして同系色のお皿に盛るかなあ。。なにか意味がありますか？
菜の花の色が映えるお皿の色はいろいろ考えられますが、

→ 菜の花のひたし織部の皿に盛り

これは料理亭

→ 菜の花の胡麻和どんと伊賀焼に

これはお総菜

→ 菜の花の一色竹の籠に活け

→ 菜の花の一色にして竹の籠

これは鑑賞用

75 切り枝の桜は散りぬ葉は出づる

・・・桜と葉の関係はこんなものでしょう。
「出づる」は連体形ですから、後に体言（名詞）がくるか、上五に戻る技法の詠み方
もありますが、このままだと季語は何？となります。

→ 葉の出づる切り枝に花残りけり

★桜の散り残る花は「残花」と言います。

が、ここではリズムを整えて「花残りけり」と季語をしっかりと確立しました。

76 入学のハレの主役も二親等

・・・昨今の親の熱心さを詠んでいるでしょうけれど。。川柳っぼい。

「入学」でハレは要らないでしょう。それに「主役も」の「も」で分からなくしましたよ。「二親等」までと決めているのでしょうかけれど。。まあ新鮮とみて、

→ 入学の主役に加へ二親等

→ 主役より親族多き入学式

→ 親族が入学式の主役めき

スママセン。。これも川柳から脱することが出来ないわ。

78 栄転を匂はせてゐる花だより

・・・選句で人気がありましたが、私は中七の「匂はせて」の「ゐる」が感じ良くなかった。辞令までは秘密裡のことだから仕方がないけれど。。せめて

→ 栄転を匂はせてあり花だより

→ 花だより栄転のあるらしきとも

花便りを讀んだ人が察する程度にしましょう。

79 ツバメ来て床の新聞飛び越える

・・・燕の巢の下に拵げてある新聞紙でしょうね。

新聞紙とすべきです。

「床」は「ゆか」とも「とこ」とも読めるので土間にしました。

→ 燕来る土間に広げる新聞紙

これだけでも読者は縦横に飛ぶ燕を想像します。

★読者も想像力を発揮して一句を読み取りましょう。

それが出来るようになると、自分の作品に対して要る言葉、要らない言葉が見えてきます。

80 窓枠の影伸びる四月朝七時

・・・日射しが伸びて、日が永くなって季節の移ろいが身近になる一景です。

硝子は日を通すから窓枠としたでしょうけれど、また、朝の7時に日の差す東側の窓でしようけれど、短い俳句でいっぱい説明するのは無理です。

大らかに景色を提示して、読者に細かいインチュエーションは任せるのも一つの方法です。

→ 窓よりの影伸び来たる朝寝かな

「朝寝」もこの時期の季語です。季語を変えた理由は推測して下さい。

★影が伸びることも含めて、冬の季語で「日脚伸ぶ」があることを書いて置きますね。

81 出雲では桜見下ろす月兎

・・・「月兎」が分かりません。出雲だから因幡の白兎と関係あるの？

月兎と出雲で検索したらお宿やカフェばかり。。

→ 月兎てふ宿より桜見下ろして

なのかな？

82 海苔弁当桜花びらひらり落ち

・・・楽しい景色。。海苔弁当と桜の色合いもきれいです。

→ 桜散るひとひらが海苔弁当に

84 花吹雪多言語乗せて川に落つ

・・・エエッ川に落つ。。たいへん。。でも、花吹雪のことでしょう？

でも、このままだとそうは読めませんよ。

→ 多国語に乗り花ふぶき川へ落つ

終止形「落つ」がきちんと座って○です。

「へ」と方向性を出しました。

85 清々と事業承継春の空

・・・清々とも判ります。事業続けて行かれるご苦労も推察しながら、

87 真新し上着に降る降る桜降る

・・・作者の弾む気持ちが伝わります。

上着に接続するためには「新しき」と連体形に。原句は終止形です。

→ 新しき衣に降り降る桜降る

「降り降る」で桜が間断なく散るようすです。

「衣・きぬ」として着物にして、よりきれいにしました。

「花衣」という季語がありますから。男性だったらどうしよう？！

88 福江島椿辿りて波光見る

・・・五島列島などに行く長崎の港ですね。椿も波の光も納得です。

すんなりと詠めば、

→ 波に照る椿辿りて福江港

→ 海光の椿辿りて福江港

椿が海の光、波の光に照り輝いていると、椿を引き立てました。

89 船べりの白き手掬ふ花筏

・・・花見舟から花筏を掬っている「白き手」女性を詠んで、花筏のピンクと白き手の色が見えます。

→ 船べりに掬ふ白き手花筏

→ 白き手を伸べ船べりの花筏

どちらでも同じことのようにですが、どちらかという、上の句は「説明的」と言われ、格が下。下の句の方が季語が生きて俳句らしい句です。その違いが判るには経験が要りますので、今はお好きな方を選んでおいて下さい。

・・・・・・・・・・・・・・・・

お互いにヤレヤレ。これで一渡りしたと思いますが、

「私の句がない」という方はご一報下さい。

元気のよい楽しい句を見せて頂き感謝です。
お読み下さったご辛抱ありがとうございました。
葉子

葉子様

勢力的な解析に
なるほど うーん そうか
ばかり発しています。
日本人やってないな? なんて思いつつ
ありがとうございます。

皆様、夫です。
何度も書きますが、全員宛のメールには、最初にご自分の氏名を入れてください。
どなたからのコメントかがわかるようによろしくお願いします。

皆さま

お世話になっております。オフ会の世話役担当を承りました年男です。
和夫さまからは、動物園での開催をご提案頂きましたが、私なりに候補地を考えてみま
した。

・梅小路公園にある「緑の館」

・お寺をお借りする

東福寺・高台寺・壬生寺・妙心寺あたりは直ぐにでも調整可

・橋本関雪記念館

皆様もお気に入りの場所等がございましたら、お聞かせください。

日程調整につきましては、和夫先生と葉子さんとも相談させていただき、皆様へお伝え
させていただきますので今しばらくお待ちくださいませ。

年男拝

皆さま

和夫です。

年男さんからの「オフ会」のメールもあり、予定より遅くなっていますが、ほぼ講評が
出そろったようなので、作者名入りの句集を配信します。

どの句が誰の作で、それをどなたが選んでいるか、というような目で見ると、また面白
いと思います。

今度は作者ご自身のご感想など、また、全員宛に送ってください。学習ですので、選に入っていない句も挙げました。元々の思いを伝えるためにはどう詠み変えるかも一緒に考えるための議論をお願いします。

すでに出ている詠み換えの提案を作者は受け入れなくても、受け入れてもいいですが、いずれにしても、最終の形は元の作者の作品として認められます。

番号	句	作者	選者
1	境内に三人のみや花曇	春菜	
2	さくら散るピンクの絨毯花ふぶき	裕子	年男特選
3	安寧な春を迎える地中の根	裕子	真紀子
4	貝寄風や拾ひし石をポケットに	葉子	陽一、和特選、美鈴
5	石畳花びら描く溝模様	苑子	
6	ほろ酔いの一人歩きや春の宵	智子	和夫、由里子、裕子、葉子、年男
7	やどかりの貌見せるまで掌	葉子	和夫、恵、陽一特選、未緒、智子
8	春待ちてあつという間に桜散る	年男	
9	さくら見て過ぎ行く春を感じけり	年男	
10	ほたるいか睨まれながら舌鼓	美鈴	未緒、真紀子
11	新入生ところ狭しと溢れをり	佳代	
12	あそこにもこびとがいるよ万愚節	春菜	和
13	参道の行く人追い越す桜風	真紀子	春菜
14	都をどり桜の帯していそいそと	苑子	美鈴
15	光射す枝から順に芽吹きあり	和	佳代、年男
16	ふと見ればビルの谷間の野蒜かな	和夫	
17	マスクごし花の宴に酔いしれる	美鈴	
18	花びらに覆わる草も花つけり	苑子	
19	早ざくら遅い桜も多様性	年男	和夫
20	再会を埋める五時間春の酒	和	苑子、美鈴特選
21	教え子を送るバス停暮の春	陽一	恵
22	裁判所正邪を祓う花並木	恵	
23	夏々と靴音立てて新社員	葉子	和
24	先輩の教科書半額花曇	春菜	葉子
25	母と行く川沿いの道春の風	由里子	
26	野の桜名もなき山を輝かせ	真紀子	陽一、裕子、未緒
27	百日目卒塔婆小町の枝垂れかな	恵	
28	満開の花仰ぐ顔とりどりに	未緒	
29	飛び交へるフランス言葉花篝	陽一	和
30	一步二歩三歩あるひて蜂に会ふ	佳代	陽一、葉子特選、春菜
31	加茂川に仰け反るさくら猛々し	恵	

- 32 大学に舞妓芸妓と新入生 春菜 和夫特選、佳代
- 33 はるかぜに誘われ書棚を作りけり 苑子 裕子特選
- 34 鹿ヶ谷花の他には昔松 惠
- 35 今日人と逢ふ道しるべ紅椿 陽一 惠特選、未緒、真紀子
- 36 ここで吹く口笛とどく春の山 佳代美鈴、年男
- 37 花冷えにあわてんぼうのやせ我慢 智子
- 38 鬼気迫る赤子の声や春休 佳代
- 39 春雷に寸暇のありてまた一打 葉子 佳代特選、由里子、智子特選
- 40 何処へ行く溪流漂ふ野の桜 真紀子
- 41 観潮へこれ以上なく身をつつみ 葉子
- 42 北寄貝ビール白木のカウンター 未緒 由里子、裕子
- 43 春めきてただ歩きやる楽しさよ 佳代
- 44 菜の花に添ゆる想ひの一人酒 智子 佳代、真紀子
- 45 春が来て待ち遠しいは五月かな 年男
- 46 いのししと笛めがけて鼻勝負 美鈴
- 47 一次予選突破ならず日永し 春菜
- 48 雪に耐え旨み幾重にふきのとう 美鈴 未緒、年男、智子
- 49 人の世は虚実の境四月馬鹿 陽一 苑子特選、佳代、裕子、和、
春菜
- 50 出雲では焼いたのどくろ桜酒 真紀子 美鈴
- 51 富士山頂どれかと問うて春の雲 和夫 真紀子
- 52 瞑想の覚めてまぶしき春光 未緒 惠
- 53 調理場の調和がとれない四月かな 春菜
- 54 寛容に見守る余裕猫の恋 智子
- 55 入社歴史上に新一步 裕子
- 56 送る花は桜と決めて街に出る 和 陽一
- 57 見返り桜人の感動今に次ぐ 裕子
- 58 哲学の道に雀の花散らし 陽一 苑子、未緒特選、年男、
真紀子、智子
- 59 おひたしの菜の花畑ほろ苦く／ほろ苦 美鈴
- 60 片腕と顔上げる人桜下 由里子
- 61 花朧黄金の月の光降り 苑子
- 62 入社する若人の未来と共歩き 裕子
- 63 送別の花持つ君は凜として 和 由里子
- 64 冬過ぎて綻ぶのは財布ひも 年男
- 65 父と見た桜は今宵満開に 由里子苑子、惠、陽一
- 66 きらきらと突き立つ若葉追う脚立 惠
- 67 さくらがね春ではなくて初夏運ぶ 年男
- 68 フキノトウ味噌で和えつつ友を待つ 由里子美鈴
- 69 分水界には渋滞中の花筏 和夫 由里子
- 70 悲喜もあり衣脱ぎ捨て別つ春 惠 苑子

71	雄猫の声真似てをり花の夜	和夫 葉子
72	デパートの地下に高値の野蒜かな	和夫 春菜
73	菜の花を黄色の皿にそっと盛り	由里子
74	ふくふくと甥っ子の頬長閑なる	未緒 葉子
75	切り枝の桜は散りぬ葉は出づる	和
76	入学のハレの主役も二親等	智子
77	服飾もときとばかりにさくらいろ	美鈴
78	栄転を匂はせてみる花だより	和夫 佳代、春菜特選
79	ツバメ来て床の新聞飛び越える	智子 裕子
80	窓枠の影伸びる四月朝七時	和
81	出雲では桜見下ろす月兎	真紀子 苑子
82	海苔弁当桜花びらひらり落ち	由里子
83	喜ぶは鯛の鯛かや桜鯛	葉子 由里子特選
84	花吹雪多言語乗せて川に落つ	未緒
85	清々と事業承継春の空	未緒 和夫、春菜
86	ペンギンと共に揺れたる花筏	佳代和夫、恵、葉子
87	真新し上着に降る降る桜降る	真紀子 智子
88	福江島椿辿りて波光見る	苑子 和
89	船べりの白き手掬ふ花筏	陽一 智子
90	さくら去りひとえヤマブキ春爛漫	裕子

皆さま

和夫です。

作者をお知らせしたとたん、静かになってしまいました。

ご自分の句のご説明もあっていいし、言い訳もできます。

例を挙げます。

71 雄猫の声真似てをり花の夜 和夫

葉子さんがとって来て評してくれました。

.....

あの啼き声を真似て遊んでいる人は誰？

「恋猫」の季語を避けて、わざわざ「花の夜」の季語の情緒にのり酔狂な！ です。

私なら「雄猫のこゑ真似てをり花の夜」と「声」の表記を平仮名にします。

★「をり」は正解○です。

「居る・おる」は、ワ行の「を」になります。

.....

仕掛けたのを見破ってます。

「声」という漢字は普通は人間の声のことで動物には当てはまらないという人もいます。
そういう意味で、「こゑ」がいいというご意見です。
人間と多の動物との区別は厳格な方がいいでしょう。
例えば、「日向ぼこ」は人がすることで、猫はやらないとか。

ここで第1回学習メール句会の修了です。

【2】第2回句会

学習メール句会皆様
和夫です。

第2回学習メール句会を開催します。

予定

5月10日（木） 投句締切
5月12日（土） 句集配信
5月14日（月） 選句締切
5月16日（水） 選句結果配信
5月21日（月） 合評締切
5月23日（水） 作者名入り句集配信

投句締切は5月10日です。和夫宛のメールで、6句を送ってください。

皆様

今回は5句しか投句のなかった方が2名あり、合計88句です。

選句してください。

選句締切は5月14日です。

番号と上五を6句選んで、その中の1句特選の番号に◎を付けてください。

選句結果を和夫宛に送ってください。

- 1 山の線澄んで鮮やか雨の後
- 2 生垣に真つ赤な苺ふさふさと
- 3 草スキーバッタと競い風を切る
- 4 新緑や父を追い越す三輪車
- 5 桜の実あちこちにある四分音符
- 6 宮参り至福のババに五月晴れ
- 7 残雪を赤く染めたる夕日かな
- 8 初夏やひばり楽しむ山の風
- 9 水田は空まんまんと堪へけり
- 10 万国旗春の祭の船出かな
- 11 小屋の前に茶摘婆らの集まり来
- 12 こどもの日過ぎた公園柵もなし
- 13 飛び石の連休ありて疲労気味
- 14 空一面舞う鯉のぼり大歩危峡
- 15 東山滴るごとに丸くなり
- 16 ひとり居は徳利片手の春の夢
- 17 老鶯と呼べど若啼きありにけり

- 18 「このたびは」聞くたび溢る熱きもの
- 19 フランス人哲学の道で風薫り
- 20 新社員企画に載せる明日の夢
- 21 ハナミズキささやきかける散歩道
- 22 春の日の急ぐ足音華やかに
- 23 新緑の山を見る度リフレッシュ
- 24 きらきらと日の出の道や春の海
- 25 頭だけ三つ見えるや燕の子
- 26 麦般若最後くらいは恵比寿かな
- 27 白川の柳に住みか螢の灯
- 28 鯉のぼり乱舞する影追う子供
- 29 芝居小屋近づいてくる祭笛
- 30 初夏が来て室温計も大慌て
- 31 春の雨遠くの山に霞かけ
- 32 かたばみに見入る背中の優しさよ
- 33 惜春や効かなくなりし糸切歯
- 34 ロープウェイうららに欠伸で動き出し
- 35 大雨を随へ五月の雨女
- 36 雨去りて夏霧昇る東山
- 37 総会の季節到来梅雨近し
- 38 風青し何知らぬ孫まだ3つ
- 39 父逝きて愛せし若葉さらに濃く
- 40 木洩れ陽にいのち輝く皐月の日
- 41 石灯籠あいだに覗く子鹿かな
- 42 新緑のもと手拭ひの忘れ物
- 43 舞い桜心模様を映しけり
- 44 闘病の父に菖蒲の風呂沸かし
- 45 新緑の注ぎて別府湾光る
- 46 若葉風夢見るように眠りたし
- 47 鞆やかすかなゆれの残りをり
- 48 見渡せる蕙照り映ゆ春の風
- 49 わが宿は朧月夜の独り酒
- 50 蒲公英の絮去り残る母思ひ
- 51 思ふことままならぬまま春が行く
- 52 冷やし蕎麦いつもの店に夏来たり
- 53 山藤にからめとられし大樹かな
- 54 藤の香を母の夢にも届けたし
- 55 地獄谷満天星ふわり蓋
- 56 艶々の柏餅喰ふ孫笑ふ
- 57 風青し春日大社はあと少し
- 58 願掛けの釣灯籠に青葉風

- 59 駄菓子屋に人の少なく燕の子
- 60 紫陽花が今年も咲くぞと芽がいっぱい
- 61 夏立ちて胸いっぱい空気かな
- 62 初かつを香味従え堂々と
- 63 初夏の大根にある辛さかな
- 64 学名に「雑草」は無し昭和の日
- 65 山道の配管に鳴く雨蛙
- 66 青時雨稽古道具を持ちにけり
- 67 上げ下げの母の手伝ひ鯉のぼり
- 68 露天湯にふかぶか椿花と肌
- 69 草笛の吹き方教わり草を摘み
- 70 春愁や胎内仏の結ぶ印
- 71 麦熟るる風を寄こして讃岐富士
- 72 手書き文字乱れ八十八夜寒
- 73 五月晴れオーケストラの和の共創
- 74 葉柳の袂を借りて昼休み
- 75 川床に気持ちがはやり夏支度
- 76 紫雲英田や弔ひの列短くて
- 77 南阿蘇鉄道の一部開通山笑ふ
- 78 参道をのらりと蝶と同行二人
- 79 待ちきれず皮もほうばる庭の枇杷
- 80 菖蒲風呂けふは浴衣にしところか
- 81 友語らひ時は止まれり初夏の月
- 82 鯉のぼり出せず罪滅ぼしの鯛
- 83 黒き影鳥居に残す夏の蝶
- 84 タンカーの島とも見ゆる薄暑光
- 85 瀬戸内の多島海へと春落暉
- 86 地藏尊微笑みおはす木下闇
- 87 ひとり身となれば老父とこどもの日
- 88 そうかもう必要ないね更衣

皆様

皆さんの選句結果を送ります。

講評をお願いします。講評はご自由に、全員宛におくってください。

宛名は15名分、確認して送ってください。

5月21日（月） 講評の締切です。その後、

5月23日（水） 作者名入り句集を配信します。

選句結果

番号	句	選者名	点数
1	山の線澄んで鮮やか雨の後		
2	生垣に真つ赤な苺ふさふさと		
3	草スキーバツタと競い風を切る	未緒、年男	2
4	新緑や父を追い越す三輪車	和夫特選、裕子、陽一、真紀子、苑子、春菜、葉子	8
5	桜の実あちこちにある四分音符	陽一、苑子、由里子	3
6	宮参り至福のパパに五月晴れ		
7	残雪を赤く染めたる夕日かな	佳代、由里子	2
8	初夏やひばり楽しむ山の風		
9	水田は空まんまんと堪へけり	美鈴、智子、由里子、葉子	4
10	万国旗春の祭の船出かな		
11	小屋の前に茶摘婆らの集まり来		
12	こどもの日過ぎた公園柵もなし		
13	飛び石の連休ありて疲労気味		
14	空一面舞う鯉のぼり大步危峡		
15	東山滴るごとに丸くなり	恵	1
16	ひとり居は徳利片手の春の夢	由里子特選	2
17	老鶯と呼べど若啼きありにけり	美鈴、智子、和	3
18	「このたびは」聞くたび溢る熱きも		
19	フランス人哲学の道で風薫り		
20	新社員企画に載せる明日の夢		
21	ハナミズキささやきかける散歩道	年男	1
22	春の日の急ぐ足音華やかに	美鈴	1
23	新緑の山を見る度リフレッシュ	由里子	1
24	きらきらと日の出の道や春の海		
25	頭だけ三つ見えるや燕の子	恵、智子	2
26	麦般若最後くらいは恵比寿かな		
27	白川の柳に住みか螢の灯		
28	鯉のぼり乱舞する影追う子供	和、年男	2
29	芝居小屋近づいてくる祭笛		
30	初夏が来て室温計も大慌て		
31	春の雨遠くの山に霞かけ	年男	1
32	かたばみに見入る背中の優しさよ		
33	惜春や効かなくなりし糸切歯	陽一	1
34	ロープウェイうららに欠伸で動き出		
35	大雨を随へ五月の雨女	佳代	1
36	雨去りて夏霧昇る東山	和夫、美鈴、真紀子、由里子、年男特選	6
37	総会の季節到来梅雨近し		

- 38 風青し何知らぬ孫まだ3つ 佳代 1
- 39 父逝きて愛せし若葉さらに濃く 真紀子特選 2
- 40 木洩れ陽にいのち輝く皐月の日
- 41 石灯籠あいだに覗く子鹿かな 惠、智子特選、未緒 4
- 42 新緑のもと手拭ひの忘れ物 真紀子、葉子 2
- 43 舞い桜心模様を映しけり
- 44 鬪病の父に菖蒲の風呂沸かし 裕子、美鈴、苑子特選、未緒 5
- 45 新緑の注ぎて別府湾光る 佳代 1
- 46 若葉風夢見るように眠りたし 春菜 1
- 47 鞆鞆やかすかなゆれの残りをり 和夫 1
- 48 見渡せる蕙照り映ゆ春の風
- 49 わが宿は朧月夜の独り酒
- 50 蒲公英の絮去り残る母思ひ
- 51 思ふことままならぬまま春が行く 真紀子、未緒 2
- 52 冷やし蕎麦いつもの店に夏来たり 未緒特選 2
- 53 山藤にからめとられし大樹かな 裕子、春菜、葉子 3
- 54 藤の香を母の夢にも届けたし
- 55 地獄谷満天星ふわり蓋 陽一 1
- 56 艶々の柏餅喰ふ孫笑ふ 美鈴特選、苑子、和、佳代 5
- 57 風青し春日大社はあと少し
- 58 願掛けの釣灯籠に青葉風
- 59 駄菓子屋に人の少なく燕の子 和夫 1
- 60 紫陽花が今年も咲くぞと芽がいつば
- 61 夏立ちて胸いつばいの空気かな
- 62 初かつを香味徒え堂々と 智子、未緒 2
- 63 初夏の大根にある辛さかな
- 64 学名に「雑草」は無し昭和の日 裕子特選、和 3
- 65 山道の配管に鳴く雨蛙 陽一 1
- 66 青時雨稽古道具を持ちにけり 惠特選 2
- 67 上げ下げの母の手伝ひ鯉のぼり
- 68 露天湯にぶかぶか椿花と肌
- 69 草笛の吹き方教わり草を摘み
- 70 春愁や胎内仏の結ぶ印
- 71 麦熟るる風を寄こして讃岐富士 和特選、佳代特選 4
- 72 手書き文字乱れ八十八夜寒 和夫、陽一特選、惠 4
- 73 五月晴れオーケストラの和の共創
- 74 葉柳の袂を借りて昼休み 裕子、春菜、葉子 3
- 75 川床に気持ちかはやり夏支度 年男 1
- 76 紫雲英田や弔ひの列短くて 苑子、葉子特選 3
- 77 南阿蘇鉄道の一部開通山笑ふ

- 78 参道をのらりと蝶と同行二人
 79 待ちきれず皮もほうばる庭の枇杷 智子 1
 80 菖蒲風呂けふは浴衣にしとこうか 裕子 1
 81 友語らひ時は止まれり初夏の月
 82 鯉のぼり出せず罪滅ぼしの鯛 春菜 1
 83 黒き影鳥居に残す夏の蝶 和夫 1
 84 タンカーの島とも見ゆる薄暑光 苑子、和 2
 85 瀬戸内の多島海へと春落暉 春菜特選 2
 86 地蔵尊微笑みおはす木下闇 惠 1
 87 ひとり身となれば老父とこどもの日 真紀子 1
 88 そうかもう必要ないね更衣
-

皆様

佳代選評です

- 7 残雪を赤く染めたる夕日かな 佳代、由里子 2

赤白の色彩が美しいです。余計ですが、雪を赤く染めるという表現が時代小説なんかで出てきて、ちょっと怖いかなと思いましたが夕日でよかったです。

- 35 大雨を随へ五月の雨女 佳代 1

大雨を随え、というのがかっこいい表現だなと思いました。

- 38 風青し何知らぬ孫まだ3つ 佳代 1

風青しを使ったいい句を詠んでみたいなどとちょうど考えていました。先日春日大社の参道を歩くと正に新緑を風が吹き抜けていましたが、お孫さんとどこへいらしたのでしょうか。

- 45 新緑の注ぎて別府湾光る 佳代 1

湾に新緑が注ぐ、水を連想させる言い回しが素敵だなと思いました。

- 56 艶々の柏餅喰ふ孫笑ふ 美鈴特選、苑子、和、佳代 5

今回は孫の句を二つも取っていました。柏餅だけでなく頬つぺたも艶々なんだろうなと繋げてよんで癒される句でした。

- 71 麦熟るる風を寄こして讃岐富士 和特選、佳代特選 4

すかっと晴れた大空や海の風景が広がります。最近暖かくなって外に出るのが気持ちよくなり、爽やかな句だなと思いました。

佳代

.....

由里子の選評です。

5 桜の実あちこちにある四分音符 陽一、苑子、由里子 3

かわいらしい句で好きです。作者は女性？！

7 残雪を赤く染めたる夕日かな 佳代、由里子 2

1枚の絵のような、美しい光景が自然に目に浮かびました。

9 水田は空まんまんと堪へけり 美鈴、智子、由里子、葉子 4

水田に空が映る光景はとてもきれいで、私も何とか句にしたいと思っていましたが、うまくいきませんでした。

素敵な句を詠んでくださって、なんだかすっきりしました。

16 ひとり居は徳利片手の春の夢 由里子特選 2

「片手の」の「の」は不要な気がしましたが、情景が好きなので、特選にさせていただきました。

23 新緑の山を見る度リフレッシュ 由里子 1

俳句は一瞬を切り取るもの、ということなら、意味では、「見る度」ではなく、ふと目をやったらリフレッシュできた、という感じになった方が良かったのかもしれませんが。

でも句のリズムが好きなので、取りました。

36 雨去りて夏霧昇る東山 和夫、美鈴、真紀子、由里子、年男特選6

京都の見慣れた景色を切り取って、素晴らしい句にされていると思いました。

以下は、多くの方が取っておられ、私いいなと思ったのですが、取らなかった句です。

4 新緑や父を追い越す三輪車 和夫特選、裕子、陽一、真紀子、苑子、春菜、葉子 8

情景はとても好きです。

ただ、「父」は詠み手のお父さんで三輪車に乗っているのは自分の子供なのか、それとも知らない親子の様子を第三者の視点から詠んだのか、いまひとつわからなくなってしまって、ずっと入ってこなかったのが、最終的に取りませんでした。

41 石灯籠あいだに覗く子鹿かな 惠、智子特選、未緒 4

これもかわいい句で好きです。

ただ、「覗く」という言葉にひっかかってしまいました。
子鹿が石灯籠の隙間から見えたのか、子鹿が石灯籠の隙間から覗いたのか。
多分、前者なのだと思うのですが、月とかなら雲間から「覗く」としても違和感が無いのですが・・・すみません。個人的な感覚で根拠はありません。

今回、素敵な句が多くて、選句にかなり迷いましたが、結果的に皆さんの取る句がわりと似ていましたね。

中植

陽一の講評は次の通りです。

4 新緑や父を追い越す三輪車 和夫特選、裕子、陽一、真紀子、苑子、

まさに「万緑」の中、生命力溢れる我が子が自分を追い越して三輪車での力走です。父は作者。嬉しさが溢れます。

5 桜の実あちこちにある四分音符 陽一、苑子、由里子 3

少し作者の創意がほの見えますが、あちこちに落ちる桜の実を音符と見立てたのが楽しいです。

33 惜春や効かなくなりし糸切歯 陽一 1

若い方には実感が湧かないでしょうが「昔はこうではなかった」という苦笑が惜春に響きあいます。

55 地獄谷満天星ふわり蓋 陽一 1

「どうだんつつじ」の雲のような細かい花の群れが谷全体に蓋をしたという表現が面白いですね。

65 山道の配管に鳴く雨蛙

陽一 1

この風景には懐かしいものがあります。今は配管が外晒しになっていることは少ないのですが、昔はこの管の上に小さな蛙が貼りついていました。

72 手書き文字乱れ八十八夜寒

和夫、陽一特選、恵 4

手書きの手紙を見る機会が少なくなった昨今、乱れたままの文字を見た相手は何を感じ取るのでしょうか。八十八夜の寒さだけかどうか……。微妙です。

和の選評です。

17 老鶯と呼べど若啼きありにけり

美鈴、智子、和 3

らうおう、とふりがなをふって読みました。春から夏への時の移り変わり、「老」と「若」の鮮やかな対比が、一句の中に含まれていて、深みのある句だと思いました。

28 鯉のぼり乱舞する影追う子供

和、年男 2

風にはためく影の上を子供の足が横切って行く、動きの上に動きが重なる情景をストップモーションで切り取った、美しい写真のような句だと感じました。

56 艶々の柏餅喰ふ孫笑ふ

美鈴特選、苑子、和、佳代 5

喰「ふ」と笑「ふ」が目飛び込んで「ふふ」と笑っています。目でも読む俳句の、文字の配列の洒脱さに魅入られました。

64 学名に「雑草」は無し昭和の日

裕子特選、和 3

雑草という名の草はない、というきっぱりとした主張と、昭和天皇が植物の研究をされていたことを思い出させる、一句から世界観、歴史観への広がりを感じました。

71 麦熟るる風を寄こして讃岐富士

和特選、佳代特選 4

飯野山の裾野に広がる讃岐平野の麦畑の風景の美しさと、取り入れ間近の黄色く熟した麦の季節感とを描くとともに、麦をゆらす風を「寄こす」としたところに、飯野山の堂々とした姿を主語とした、詠み手の風景の捉え方が素晴らしいと思います。

84 タンカーの島とも見ゆる薄暑光 苑子、和 2

穏やかな海に浮かぶタンカーに、初夏の眩い光が降り注ぎ、輪郭が揺らぐ様子を、島とも見ゆる、と表現された描写力に感銘を受けました。

和夫さん 皆様
年男の選評です。

3 草スキーバッタと競い風を切る 未緒、年男 2

子供たちが楽しく遊ぶイメージが湧く句だと思いました。

21 ハナミズキささやきかける散歩道 年男 1

桜に始まり、散歩することが楽しくなる季節を表しているように思いました。

31 春の雨遠くの山に霞かけ 年男 1

天気は、晴れる方が良いわけですが、時折降る雨によって山が霞んだり、輪郭が際立ったりして風情を感じさせる句だと思いました。

36 雨去りて夏霧昇る東山 和夫、美鈴、真紀子、由里子、年男特選

天気は、晴れる方が良いわけですが、時折降る雨によって山が霞んだり、輪郭が際立ったりして風情を感じさせる句だと思いました。

75 川床に気持ちかはやり夏支度 年男 1

床の設置で今年も夏がやってくることをイメージさせる句だと思いました。
以上です。

和夫さま、皆様
真紀子の選評です。

4 新緑や父を追い越す三輪車

新緑の眩しさや、親子さんの姿が鮮明にイメージが出来、力強いのにほのぼのとした、とても楽しい素敵句だと思いました。

36 雨去りて夏霧昇る東山

盆地、京都の夏らしい光景が目浮かぶ様です。枕草子を彷彿させました。

39 父逝きて愛せし若葉さらに濃く

特選とさせて頂きました。お父様を亡くされて、お父様の愛されていた、自然やお庭の樹々をご覧になられて、これまでと少し違う見えかたをした悲しみの感情を、目に映ったもので表されているのでしょうか。

42 新緑のもと手拭ひの忘れ物

誰の忘れ物でしょうか。手拭いが、新緑のもとの忘れ物として表現されただけで、一枚の絵になりました。

51 思ふことままならぬま春が行く

春という、煌めく季節に、思うことが上手く解決出来なかった歯痒さが伝わって来そうです。

87 ひとり身となれば老父とこどもの日

お子さんも独立され、パートナーに先立たれたのでしょうか。せつないのですが、こどもの日という季語で、お父様とお2人の姿が、ほのぼのして感じられます。

拙い選評ですが、以上です。

苑子の講評をお送りいたします。

4 新緑や父を追い越す三輪車 和夫特選、裕子、陽一、真紀子、苑子、春菜、葉子 8

皆まで語っていないのに、杖をつきながらゆっくりゆっくり歩いている老人と、勢いよく三輪車をこぐ小さなこどもの姿が目裏に浮かび、そのこどもの対比が父親に対する気持ちまで炙り出ている、見事だと思いました。

5 桜の実あちこちにある四分音符 陽一、苑子、由里子 3

ひとりで哲学の道を吟行したのですが、道に可愛らしい桜の実がいっぱい落ちていまし

た。これは俳句にしたいと一生懸命悩んだのですが、私にはできませんでした。それが、「四分音符」で表現されていて、「そっか！すごいなあ！」と思い選ばせていただきました。

44 鬪病の父に菖蒲の風呂沸かし 裕子、美鈴、苑子特選、未緒 5

4の句と心地が似ているのですが、育ててくれた父親が衰え、親子の立場が逆転した様子に向き合っている感じに心が打たれます。

56 艶々の柏餅喰ふ孫笑ふ 美鈴特選、苑子、和、佳代 5

「艶々の」は柏餅と孫のほっぺの両方なのでしょう。柏餅を握ってご機嫌な小さなこどもが目の前に見えるようです。

76 紫雲英田や弔ひの列短くて 苑子、葉子特選 3

「紫雲英田」は「げんげだ」と読むのですね。休耕田に広がるレンゲの花。そこに「弔ひの列短くて」ということは、亡くなったのはお年寄りなのでしょう。若い人がいなくなった田舎の郷で、お年寄りのひとりが亡くなったのであろうそんな様子をこれだけの文字で表現されていて、すごいなと思いました。

84 タンカーの島とも見ゆる薄暑光 苑子、和 2

数年前に訪ねた軍艦島を思い出し、目の裏に浮かんできた情緒ある風景により選句いたしました。
以上です。

葉子選評

4 新緑や父を追い越す三輪車

・・・三輪車を一生懸命漕いで父親を追い越そうとする3歳前後の子ども、三輪車で子どもの年齢が限定されて想像出来るし、その若い父親の姿も、はっきり見えてきます。

子どもと父親の弾ける声も聞こえてきます。何より新緑の季語が良いです。こどもの日の前後の連休の頃の心地よい風まで感じます。

これが「ゴールデンウィーク」の季語だと三文安になるところでした。

◎一句にとっては「季語が大事」、一句の命は「季語」という良い例を戴きました。

ただし、

★「追ひ越す」です。

「追う」＋「越す」の複合動詞ですが、終止形「追ふ」の連用形は「追ひ」です。「越す」は○ですから「追ひ越す」。

辞書を友達に・・・・・・・・・・・・・・・・

※歴史的仮名遣い（古語）の調べ方について電子辞書でも良いので「追い越す」と引いて下さい。すると「オヒ・・・」のようにもカタカナの部分が書き添えられています。歴史的仮名遣い（古語）が現代仮名遣いと異なる場合の表記です。

「追う」と引いてみて下さい。「オフ」とありますね。この終止形で「ハ行」と判ります。

「越す」と引くと、カタカナでの表記がありません。ということは「そのまま」ということです。そこからも「追ひ越す」と判断できます。

※句会に投句するときは、現代仮名遣いでも、今の段階では良いですが、少しずつ経験で身に付けて行くためには、注目して下さい。

※投句するときは、使った言葉を今一度辞書で確認する習慣を付けましょう。考えもしなかった思い違いに気づいたり、別の良い言葉が見つかったりします。私なども、いまでも一字一句確認します。良い言葉はないかなあ。。間違っていないかなあ。。と辞書を漁ります。学生時代より真剣に(* *)

42 新緑のもと手拭ひの忘れ物

・・・ちょっと汗ばむ頃は手拭い、ハンカチが欠かせません。しかも季節的にまだ使い慣れていないから忘れやすい?! 新緑の木蔭に来て、誰かの忘れ物に気づいたのですね。

どんな理由での、誰の「手拭い」かは何にも言っていないけれど、汗吹きの手拭いかな? それとも。。などと読者は想像します。

※すべてを説明していなくても読者が想像出来る景色を提示する一句、これが短い俳句のコツであり、散文の報告文と違う点です。

※その時に適切な季語が働いてくれます。季語はお互いの共通認識を喚起しますから。

※「手拭ひ」の表記も○です。「拭ふ・ぬぐふ」のハ行です。

なお、この句の難点は「新緑のもと」の「もと」が曖昧ですから「新緑の枝（え）に・・・」なら、さらに映像がくっきりして良いかと思えます。

53 山藤にからめとられし大樹かな

・・・山藤の姿をそのまま詠んでいます、中七が迫力のある表現で良いです。しかも大樹と言い、覆い被さっている山藤の生命力や花の見事さが溢れています。俳句は勢いがあるってポジティブに表現が大事です。少々オーバーな表現も○です。

※「からめとられし」の「し」は過去形。「からめとられた」の意味です。

74 葉柳の袂を借りて昼休み

・・・さて昼休みと、涼しげな休憩時間を楽しむのに気持ち良さそうな場所。そこを「借りて」と読んだことが成功です。忙しい時間の合間にこんな心の余裕があれば良い仕事もバリバリ。目の付け処が抜群ですよ。

ただ、俳句的には「袂」とまで言わない方がスッキリします。「木蔭」ではありきたりだしね。

→ 葉柳のそよぎを借りて昼休み

◎76 紫雲英田や弔ひの列短くて

・・・一面の紫雲英の花咲く田の道を野辺送りとして葬儀を執り行う田園地域が彷彿とします。特選の理由は下五の「短くて」です。弔ひの列が「短い」ということは、送る人が少ないこと。過疎で集落の住民が少なくなっている現状、親族の少なさが想像されます。葬列の淋しさが身に迫ります。

※「弔ひ」は○です。終止形ハ行の「弔ふ」。名詞も「弔ひ」ハ行です。

その他良い句をありがとうございました。ここまでは選句の時に書き置きました。別途、私のコメントを送らせて頂きます。

葉子

みなさま

葉子です。

先ほどの私の選評に抜かっていた一句について、追加の選評です。

9 水田は空まんまんと堪へけり

・・・連休頃の田の様子がありありと、しかも生き生きと表現されているから、共感も多くて人気でしたね。

水を満々と湛えて田に空が映っていることを「空まんまんと」と詠まれた点が佳いです。

私も頂きました。が、実は無季の句と判っていて確認犯の私の選です。そう、この句は季語がありません。

「水田・すいでん・みずた」は季語ではないのです。稲をこれから植えるために水を張った田は「代田・しろた」で、これが季語です。

→ 代田いま空まんまんと湛へけり

苗を植えたばかりの田も空が、雲が映ってきれいですよね。だから、代田や植田に「空を映して」の句はごまんとあり、類想類句の山ですが、それを抜けて表現をされていた点を頂きました。

葉子

みなさま

葉子です。

今回も佳い句を見せて頂きありがとうございました。

実は、だいま夏の風邪の最終段階、いまだ葉が切れると熱がぶり返し、フラフラの脳細胞です。

でも、せっかくですから、ひと言を書かせて頂きます。失礼があればご海容に。。

第一弾・・・ここが惜しかったの作品について、

魅力的な句ながら、俳句としてチェックすると、ここが惜しい！ここに難点あり、後一步の残念賞になった作品です。

5 桜の実あちこちにある四分音符

・・・桜の実を四分音符と見立てた新鮮な視点です。

ただ中七は言わずもがな、その分が曖昧な伝達になっていませんか？ 四分音符というからには、線を思わせる場所の設定が必要かと思います。

→ 石道に四分音符めく桜の実

石畳に（上五は字余り可、ここでは「に」が要ります）

→ 石庭に四分音符めく桜の実

石庭は流砂を喚起します。

3 草スキーバッタと競い風を切る

・・・気持ち良さそう、しかもバッタと競うなんて子供心バンザイで、この感覚は大事にして下さい。

でも、季語がありませんよ。飛蝗も秋の季語です。風の季語「薫風」を使うと、草スキーで「風を切る」様子は言わずとも読者に伝わります。

→ 薫風や虫と競うて草スキー

「虫」はまだそんなに元気ではないし、小さすぎますから

→ 薫風や鳥と競うて草スキー

※「競ふ」はハ行。連用形は「競ひて」ですが、ここではウ音便の「競うて」が良いと思います。

7 残雪を赤く染めたる夕日かな 智子

・・・きれいな景色がきれいに出来ています。

ただ、俳句は、言葉の含む状況や意味を以てギリギリを伝える詩型です。しかも十七音しかないので、重複する言葉や意味は避けて最低限で表現する形です。それゆえに、使った言葉が伝えていることは言わないことがコツです。とすると、中七は「夕日」そのものですね。その夕日を思わせる表現にして、

→ 残雪に色をなしたる夕日かな

本来は白い残雪が夕日の色となったとしました。

10 万国旗春の祭の船出かな

・・・春の祭は、これからの豊作や豊漁を予祝する、祈る祭です。その祭を万国旗を掲げて船出する漁師町の「春祭」を伝えていて、季語の本意にもしっかり応えた、とても良い句です。少し俳句の形式に慣れていない表現になって、とても惜しい句です。

→ 万国旗掲げ船出の春祭

※「祭」のみは夏の季語ですが、

「春祭」「秋祭」それぞれ意味合いが違う季語です。「祭」を詠むときは、その点に注意しましょう。

14 空一面舞う鯉のぼり大歩危峽

・・・大歩危峽あたりは谷が深くて空の狭いところ。その空いっぱい鯉幟が上がっている景色がしっかり見えてきます。ただ、俳句的に見ると、鯉幟が「舞う」は判りすぎる常套的な言葉で避けましょう。せっかく大歩危峽とあるから「空一面」も読者が想像出来る言葉ですから。

→ 鯉のぼり空一面の大歩危峽

なんとなく落ち着かないと思いませんか？ 「大歩危峽」は六音ですから上五にして、しかもここでは助詞が要ります。

→ 大歩危の空埋めつくす鯉幟

※固有名詞はここぞという場合のみに使いましょう。ここでは大歩危峽、大歩危の固有名詞が効いています。

20 新社員企画に載せる明日の夢

・・・夢は夢と終わるかも知れないけれど、新社員は夢を盛り込んだ企画書を提出されるのでしょうか。経営者としての暖かい眼差しが見える作品です。言葉の順序をちょっと換えるだけで俳句らしくなります。

→ 明日の夢企画書に載せ新社員

最後に季語が来ると「季語が座る」と言い、良い形になります。

36 雨去りて夏霧昇る東山

・・・日々見かける景色を、季語で再発見して詠む！俳句に欠かせない、とても大事な視点です。人気の得点になるのも納得、私も共感します。初心者のメール句会では、お手本となる視点の作品だから、これで良しとしたいところですが、ここで満足せず、さらに一步上を目指す良い俳句になる要点を申し上げます。

それは「雨去りて」の上五です。なぜでしょうか？ 雨の後の湿気が靄となって山肌を昇る。。この時の気温の高さも感じさせるし、この「昇る」の漢字が使われたことも適切ですし、それが「東山」であることの景色の良さ。。なのに。。理由は、「原因」があり、「結果」を並べてしまったからです。

※俳句は短い。その短い中で原因結果をあからさまにしない詠み方を模索しましょ

う。理由は、せっかくの一句が報告的になるからです。

「雨がり」→「夏霧」、これは気象上のパターンです。だから、「夏霧」の原因は言わなくても判る。。これが俳句の思考の図式なのです。

それと判らせて、なおかつ原因を正面に出さない詠み方。。いろいろ考えられますが、
※一つの方法は

夏霧の様子、その時の東山全体の様子を伝える表現として

「蒼々・そうそう」・・草が茂るさまで、どちらかというあまり明るくない茂り、

「朧々・ろうろう」・・朧に霞む様ですが、薄明るさがる、
等々のリズム感のある形容詞を使ってみる方法があります。

→ 蒼々と夏霧昇る東山

→ 朧々と夏霧昇る東山

春の季語「朧」から完全には離れず、かつ季語ではないモヤッとした「朧々」が東山らしいか
と思います。

※時間を思わせる言葉を使ってみるのも方法です。

「明易し」の季語がある時期ですし、日が高くなったら気温が上がり霧も消えますから

→ 早暁の夏霧昇る東山

→ 早暁を夏霧昇る東山

この「を」は限定を示すちょっと高等な使い方。

その他の表現もありますが、このように言葉を探すと、一句出来て、原因結果がもろに出るな
あと気づいて推敲する時のヒントになります。

37 総会の季節到来梅雨近し

・・・なんとなく作者が想像出来る一句。作者が見える。。これは良いことですよ。少しその
まんまですから、

→ 目前の会社総会梅雨近し

梅雨の近いこの時期は会社の総会の時期、でも「総会」自体は会社以外にもありますからね。

39 父逝きて愛せし若葉さらに濃く

・・・お父様がお亡くなりになった後の、何を見ても亡き人を思い出す、それが若葉で「さらに濃く」とより一層の感覚が身に迫ります。

ただ、「愛せし」の主体が「父逝きて」と連用形で繋いだことが、逆に父上か作者かが曖昧になりました。

→ 父逝くや父の愛せし若葉濃き

この時期にお父上が亡くなったことが伝わるし、「若葉濃き」と見た作者の思いも表せるかと思えます。

57 風青し春日大社はあと少し

・・・広い春日大社の周辺の空気感も出て、季語が良いです。問題は、「春日大社はあと少し」の「は」です。これで？ ですよ。

→ 風青し春日大社へあと少し

なら、作者が目指している距離感が出ます。
もう少し具体的にして、

→ 風青し春日大社の朱が見えて

「鳥居抜け」という方法もありますが、鳥居の後の参道も長いし、「青」と「朱」の対比で「風青し」が強調できます。

78 参道をのらりと蝶と同行二人

・・・蝶が飛んできたことを「同行二人」と見立てた点は佳いですね。
下五が七音になっていることと、「のらりと」がせっかくの同行二人を緩ませていませんか？
同行二人を活かすには、小さな「春の蝶」より、迫力のある「夏の蝶」の方が良いように思います。

→ 夏蝶と同行二人参詣す

86 地藏尊微笑みおはす木下闇

・・・「木下闇」の季語で、堂宇に祀られている地藏尊ではなく、木々が茂る一画の野外に立たずむ石のお地藏様を想像します。

これは俳句に慣れた方でしょう、きっと。と想像すると、なおさらで申し上げます。地藏尊は「微笑む」仏です。それに「おはす」という敬語も言わずもがなになります。詠み慣れておられる方なら、この地藏尊の姿を特別感でお詠み下さい。

以上、良い句を読ませて頂きました。

ありがとうございました。

葉子

春菜の選評です。

4 新緑や父を追い越す三輪車

三輪車が可愛らしく、新緑の新しい葉が成長している感じと合わせていいなと思いました。

46 若葉風夢見るように眠りたし

林海象監督の『夢見るように眠りたい』を思い浮かべました。映画同様どこか現実離れた雰囲気を感じました。

53 山藤にからめとられし大樹かな

からめとられるという言葉で上手く表現されているなと思いました。大樹というのも生命力を感じる言い方で素敵でした。

74 葉柳の袂を借りて昼休み

いい昼休みだなと思いました。葉柳と袂という言葉が爽やかな雰囲気を演出していると思いました。

82 鯉のぼり出せず罪滅ぼしの鯛

アクセントをつけたくなるようなリズムを感じ、最後のオチも面白く、私の中では目立っていた句でした。

◎85 瀬戸内の多島海へと春落暉

スケールが大きい句で好きでした。春落暉という季語は調べても出て来なかったのですが、春夕焼や夕焼と解釈しても、瀬戸内海のどこかの島から海を見ていて、そこに日が沈んでいくゆったりとした

景色が浮かびました。

以上、春菜の選評でした。

みなさま
葉子です。

★第二段は「動詞は一つ」について、俳句は短いので、動詞が二つ以上あると焦点がぼやけたり、一句が説明的になったり、時に主体が動いたりします。慣れてくると上手に使うことも出来ますが、初心の時は「動詞は一つ」と思って作りましょう。

28 鯉のぼり乱舞する影追う子供

・・・鯉幟といえは通常は空に舞う姿、乱舞を表すのに「追い」「駆ける」と複合動詞にして、

→ 鯉幟の影追ひ駆ける子どもかな

正確に言えば「追ひ駆くる」ですが、ここでは可愛い姿で「追ひ駆ける」が良いでしょう。

30 初夏が来て室温計も大慌て

・・・動詞が2つと言うより、室温計が大慌ての擬人化が問題ですね。

→ 初夏の一気に高き温度計

「初夏・はつなつ」としました。

45 新緑の注ぎて別府湾光る

・・・「注ぎて」が余分だったね。

→ 新緑の眼下に別府湾光る

48 見渡せる薨照り映ゆ春の風

「薨の光」と名詞にすれば「見渡せる」「照り映ゆ」とややこしくならず済みます。

→ 見渡せる薨の光春の風

→ 春風や薨の光り見渡して

「光り」とすると動詞になりますが、作者の視点を追う感じを出せば原句のようにややこしくないでしょうか？

50 蒲公英の絮去り残る母思ひ

・・・一読意味が判りにくく??でした。動詞が悪さをしたんですね。絮が「去り」の蒲公英と、もしかして父上が亡くなられて「残された母」を「思う」私。。でしょうか？これが間違いでなければ、動詞の主体が三つも出てくることになります。「動詞は一つ」のいちばん大事な要点は、この主体がバラバラに迷走することを避けるためです。

→ 蒲公英の絮や独りになりし母

→ 蒲公英の絮や遺りし母のこと

もし間違っていたらゴメンナサイ。亡くなった後のことなら、漢字は「遺されし」「遺りし」と「遺」の漢字が相応しいと思います。

56 艶々の柏餅喰ふ孫笑ふ

・・・「喰ふ」「笑ふ」などと動詞を二つ並べる使い方も、成功すれば面白い句になりますが、残念ながら成功しているとは言い難いですね。

まず、「孫」は止めましょう。「孫」の言葉は三文安、可愛い孫でも「孫」といわず詠むことです。

しかもこの句会のメンバーを想像するに、ご自分の孫?と想像しましたけれど。。

食べ物の句は美味しそうにですが、艶々は要らないですよ。

→ 柏餅喰うて笑うて四世代

下五は「三世代」でも、「大家族」でも良いですが、曾孫までいる方が賑やかで良いかなあ。「喰ふ」「笑ふ」はウ音便にして、思いっきり楽しそうにしましょう。

69 草笛の吹き方教わり草を摘み

・・・教わり、摘みとすべて言っています。「すべてを言ってしまわない」が俳句ですね。

→ 草笛に摘むも鳴る草鳴らぬ草

→ 草笛を習ひ鳴る草鳴らぬ草

細かく言えば動詞が3つ、でも「鳴る草」「鳴らぬ草」と名詞を修飾して名詞化する方法だと動詞の重複のややこしさは消えます。「教わる」は「をさはる」ですから「おそはり」です。

79 待ちきれず皮もほうばる庭の枇杷

・・・気持ちは判りますが、気短？単に気が早いただけ？

→ 待ち切れず頬張る庭の枇杷成れば

皮ごとは読者がエッと？となるので、それは止して、商品ではない良さを強調しては如何でしょうか。でも動詞が3つ。「頬張る・ほおばる」ですから「ほほばる」です。

→ 熟れ色の待ち切れずあり庭の枇杷

これで動詞2つ、

→ 熟れ色を鳥に負けじ庭の枇杷

→ 鳥に先越されぬうちに庭の枇杷

我が家は娘が種を埋めた枇杷を放置、今や鳥の餌。。

17 老鶯と呼べど若啼きありにけり

・・・これも正確には動詞2つ、ただ1つが否定形だと2つのややこしさは感じさせない例です。

葉子

第3段は「季語」について

「季語が複数だよ」「季語が無いよ」など、季語は適切ですか？と問いたい作品です。

1 山の線澄んで鮮やか雨の後

・・・「澄む」は秋の季語であります、5月の句会の「当季」は、晩春から初夏の季語が適切かと思えます。秋の季語としても、この「澄む」の使い方は適切でないと思えます。でも、景色は想像出来ます。

「山の線」は「稜線」と言いますので、

→ 稜線を鮮やかにして初夏の月（初夏の宵）

春が過ぎて夏本番の前は比較的乾燥した空気感で、明るい感じです。

8 初夏やひばり楽しむ山の風

・・・「ひばり」は、初夏になっても「揚雲雀」として見かけますが、春の季語。

→ 初夏の鳥声に満ち山の風

※「楽しむ」などの感情語は出来るだけ避けましょう。それを言わず、どう表現するかです。

13 飛び石の連休ありて疲労気味

・・・日常的には「飛び石連休」と言いますが、季語には成っていません。

「ゴールデンウイーク」季語にしている歳時記はありますが。遊び疲れることも良く判りますが、それを言っちゃあ。。

→ 飛び飛びの休みに初夏の疲れかな

→ 休日の飛び飛びに夏来たりけり

今年は5月5日が立夏、この日から夏の季語ですから。

15 東山滴るごとに丸くなり

・・・「滴る」は夏の季語ですが、水の「滴り」の意味が季語の本意ですから、水の豊かな山ですが、東山が滴るたびに丸くなるは、無理ですね。

→ 東山滴るごとく若葉して

と比喻に「滴る」を使うと季語の扱いには成らず、季語を別に付けて成り立ちます。ただ「滴るごとく」と「若葉」は常套的な表現であまりお薦めできないので、

→ 若葉風朝な夕な東山

東京にはない風景で、これぞ東山に近い京都の良いところ。

18 「このたびは」聞くたび溢る熱きもの

・・・季語が無いけれど、他の句から推察すれば上五はお悔やみの言葉？

その言葉を受けるたびに、亡くなった方への思いが募ると言うことでしょうか？ 「聞くたび」と言うより「受けるたび」でしょうね。

→ 「このたびは」と言はるるたびの春愁ひ

春愁ひという季語はふさわしくないかも。それに句会を離れて一句に成ったときに「このたびは」の意味は不明になってしまいます。

→ 春逝くや父のお悔やみ受けるたび

春が過ぎ去る「春逝く」の季語で時間の流れを季語としまして、時の移りゆく淋しさ儚さを表し、作者の気持ちを込めては如何ですか？

6 麦般若最後くらいは恵比寿かな

・・・般若湯ではないし、麦般若（むぎはんによ）ってなに？判じ物みたいで。。。

私は下戸ですが、想像を逞しくして「恵比寿？」ビール？と。

調べると高野山がもっともヒットして、般若湯と同じくビールを麦般若と言うらしい。でもどの辞書にもないよ！ これでは季語になりませんわ！

→ 麦般若とて山寺のビールかな

山寺としか言いようがないし。。なにを詠んでも良いけれど、季語だけはキチンとした言葉として扱いましょう。

31 春の雨遠くの山に霞かけ

・・・「春の雨」「霞」と季語が重なっています。

季語が重なっても佳い場合がありますが、この場合は「春の雨」の様子を「霞」で説明していますから×です。

→ 春の雨遠くの山の消え失せて

34 ロープウェイうららに欠伸で動き出し

・・・「うらら」の季語は春の気候ですから、「ロープウェイ」に「うららに」と連用形で付けるのは無理です。

「軒うらら」のような名詞ならまでもですが。「欠伸」で動き出すも無理ですね。だってロープウェイが欠伸するはずもないから。

→ うららかにロープウェイの動き出し

52 冷やし蕎麦いつもの店に夏来たり

・・・「冷し蕎麦」は季語にないので、「夏来る」と季語を使われたと思いますが、「冷し蕎麦」は中華麺の「冷ーメン」のことでしょうか？日本蕎麦は「冷し蕎麦」とは言わないですから。
なんだか落ち着きませんが、

→ 夏来たるいつもの店に冷し蕎麦

「夏来る・なつきたる」の送り仮名はあってもなくても良いですが、「冷し」は「や」ナシで使いましょう。

55 地獄谷満天星ふわり蓋

・・・さて季語は？「どうだんつつじ」のことでしょうか？
地獄谷と言われるところに満天星ツツジが咲き乱れてふわりと蓋をしているような様子でしょうか？
たくさん咲いていても地獄谷の蓋になるような花ではないと思いますけれど。。。
「ふわり」は「ふはり」です。

→ 満天星のふんはり咲いて地獄谷

これで満天星ツツジが地獄谷に咲いている景。それだけで風景は出来上がりますから、「蓋」などなくて良いことが判りますね。

※「～の花」は「～の咲く」と言い換えられます。ただし「～の花咲く」の「咲く」は要りません。

※季語には「～の花」「花～」と「花」が必要な植物と、要らない植物があります。必ず歳時記で確認して下さい。

60 紫陽花が今年も咲くぞと芽がいっぱい

・・・紫陽花の芽が多いことで、今年も咲くぞと言う感じと作者が受け取る。。
それは判りますが、このままだと紫陽花の擬人化。擬人化は上手に使うと強力になりますが、外すと陳腐の部類に入ります。

→ 紫陽花の咲くを待たる芽吹きかな

本来「紫陽花」の季語は「花」のことで、ちょっと無理押しですが、「芽吹き」の季語として扱いました。

68 露天湯にぶかぶか椿花と肌

・・・「さくら」は「桜花」と言いますが、椿は「椿花」とは言いません。俳句として「肌」は余計です。なぜって露天湯だから・

→ 露天湯に色添へて浮く藪椿

いろいろな椿がありますが、藪椿はくっきりと色姿も見えるし、場所柄も想像させる一因になります。

75 川床に気持ちかはやり夏支度

・・・「川床」も「夏仕度」と欲張っていませんか？

最近、川床は一ヶ月も早くて戸惑います。6月からで季節感が納得なのに。。。朝から組み立て作業を始めて夕方には出来上がるので、

→ 夕暮や鴨川の川床建ち上る

※生の声は潜めて。。言いたい事実を具体的なモノに言い換えて詠みましょう。それが俳句。

※貴船は「かわどこ」、鴨川は「ゆか」と使い分けましょう。

80 菖蒲風呂けふは浴衣にしどころか

・・・湯上がりに浴衣と思われたでしょうけれど、季重り。

→ 菖蒲湯のけふは着物と致たさうか

「さうか」は「そうか」の古語です。

下記の季語は、もしやして思い違いをしていないかなあと心配な季語です。

6 宮参り至福のババに五月晴れ

・・・「五月晴」は6月、梅雨時の梅雨の晴れ間のことです。5月の晴れの日のことではありませんよ。

一句については「宮参り」に「パパの至福」は当たり前すぎで個人的感慨が全開。。

俳句は読んだ人が喜びを感じとり祝福する詩型。作者はそれを思わせるように上手に潜めて詠

みましょう。

俳句は極楽の文学と虚子が言いましたが、同時に俳句は含羞の文学でもあります。自分が楽しみ喜んで、読者の側は引いてしまいます。

→ 初夏の空晴れ上がり宮参り

40 木洩れ陽にいのち輝く皐月の日

・・・「皐月」は旧暦5月の異称で、新暦だと6月のことです。
しかも1ヶ月間の1日限定で「日」は無理かと思います。
もしかして、端午の節句を指しているのかしら。。

→ 木洩れ日の輝き溢れ端午の日

ちょっと甘いけれど、慶びとお祝いの気持ちを押し測って。。

73 五月晴れオーケストラの和の共創

・・・「共創」は国語辞典にはまだ載っていませんが、パソコンは変換出来ました。
漢字は便利で、たぶん「共に創る」という意味かと想像が出来ます。ただ、どの辞書にもない言葉は使うときに要注意です。業界用語だったり、一部の流行語だったり、造語だったり。。
日本語としての認知度が問題になります。

「共創」だから「和」はなくても佳いかと思います。

→ オーケストラと競演めきぬ五月晴

梅雨の合間のこの上なく晴れた日、気持ちの良い日差しと音楽、まるでこのオーケストラと競演しているみたい。。

私もパソコンで作業するときはずっと音楽を流しっぱなし。だいたい小澤征爾の演奏したプログラム。。彼の音はリズム感がくっきり、切れが良いので俳句にぴったり。同じ曲でも、俳句の時は小澤さんといつの間にか決まってしまうました。

※初心の時は、だれ一もが、「これでは幼稚かしら」と思って、妙に凝ってみたり、拘りますが、素直にすうっと読者の心に届く句が良い句なんですよ。読んだ人が気持ちよくなるような詠み方で、素直な表現にしましょう。技巧の懲らし方を会得してから、凝って下さい。

12 こどもの日過ぎた公園柵もなし

・・・季語で、5月5日を過ぎた公園としっかり伝わりますが、「柵もなし」とどういう意味でしょうか？

38 風青し何知らぬ孫まだ3つ

・・・三つ子の魂百までもと言います。3歳児と言えど「何知らぬ」はないかと思えます。それともこの中七に特別のことが言いたいのでしょうか？

この2句は作者にお教え戴かないと判らなかったです。

葉子

惠選句と講評です

15 東山滴るごとに丸くなり

ごとに、が毎にか、ごとくにかどちらかな、と思いました。季語の使い方としていいのかどうかもわかりませんでした。露や小雨がふるたびに、若葉が勢いよくでて、冬の間葉がやせてとげとげと尖っていたような山が丸々と太ってくるようだ、という景色がおもしろいと思いました。

25 頭だけ三つ見えるや燕の子

猫や犬やかわいい「子」の写真が「どうだ可愛いだろう」と巷間に溢れて食傷気味なのですが、ふと、野生の燕の子に罪はない、今度燕の子を探してみようかと言う気になりました。具体的にはわかりませんが「見えるや」を言い換えて、なにか動きのある言葉にしたら、もっと生き生きするのでは？と思いました。

41 石灯籠あいだに覗く子鹿かな

石灯籠の蝋燭を灯す？穴から見える小さな風景、カメラのファインダーをのぞいたような、切り取った感じが面白いです。「覗く」というと能動的な感じなので、違う言葉で「ふと目をやると偶然石灯籠の穴越しに子鹿と目があつた」、というような表現になったら、いいなと思いました。

66 青時雨稽古道具を持ちにけり

子どもがお習字の帰りか、小雨の中を道具がどうしても濡れてしまうので往生している、と見ました。懐かしい風景です。小さなこどもに大きなかばん。うまく言えませんが「持ちにけり」では終わってしまうので、「手にあまり」とか「みぎひだり」とか・・・傘持

って、大きな稽古道具もって、子どもがちょっと困りながら歩いてる、そういう言葉にしたらどうでしょうか。

72 手書き文字乱れ八十八夜寒

静かな夜、手紙でも書こうか・・・日頃、パソコンで検索しては、ぼいぼいと張り付けながら見栄えのきれいな体裁の書類を作っていく私にとって、うらやましいシーンです。リズムがおもしろい調子の句と思います。

86 地藏尊微笑みおはす木下闇

「微笑みおはす」というところがゆったりしていいと思いました。

以上です。宜しくお願ひします。

みなさま
葉子です。

次々送られてくる選評を拝見すると、どなたもすばらしい！ それに流石に文章力抜群。熱の身で嬉しく拝見しています。

選評がキチンと出来ることは、俳句の素質の二大能力、作句力は選句力、選句力は作句力、車の両輪です。

どちらかが先行することはありますが、一句の背景を読み取る力があれば、五七五になれるに従った作句力も知らず知らずに付いてくる。。

これは経験者として保証します。後は場数を踏んで慣れるだけ。俳句は慣れの部分も大きいです。

これからを楽しみにして、私も五月蠅になっても、心して言わせて頂きます。

昨日まで身体全体に膜を張ったような感覚で書かせて頂きました。

まともに書けているか心配になっていますが。今日は少し膜が薄くなったかな。

お気づきのコト、ご感想なんでも遠慮なくズバズバ言い返して下さい。私はそんなつもりではなかったとか、この方が良いのでは？。とか、ここが良かったとか。言い合ってこそその句会ですし、私の独断にならない為にも、ぜひご意見を聞かせて頂ければ幸いです。

なお、お忙しい方ばかりなのに、たくさん書いて気が引けますが、ぜひご自分の句以外、仲間の句に注目してお読み下さい。

自分の句に注目するのは当たり前ですが、ややもすると、自分のこと以外は見過ごします。でも、実力を付けていく方は、自分の句よりも他の人の句から学びます。理由は客観的に判断できるからです。これも句会ならではの得点です。

ご意見をお待ちしています。
この後、続きの選評をお送りします。

葉子

みなさま
葉子です。

第四弾は、テーマなし、1句ずつの「ここが弱点」を書かせて頂きます。
途中、俳句の三大切字「や」「かな」「けり」について、簡単な説明を入れて置きます。

9 フランス人哲学の道で風薫り

・・・この頃フランスからの旅行者がまた急増している様子です。
外国人と言わずフランス人と断定した点が良いです。哲学の道とのコラボ。。イマイチになったのは「哲学の道で風薫り」、この「で」が邪魔をしています。

→ フランス語と哲学の道風薫る

国言葉とすると会話しながら歩いているのかな。。それとも。。と読者に想像の景色が見えてきます。作者はフランス語を耳にしながら、そこに居る。。風薫る哲学の道で。。と読者が読みとれます。作者の存在が潜んでいると、一句の背景がしっかり確立した俳句になります。

16 ひとり居は徳利片手の春の夢

・・・ひとり居のひとり酒でいささか酔いが廻っての春の夢かしら。。
春の夢が唐突に繋がっている感じですから、ここは軽く終止形で「切れ」て一拍欲しいです。
徳利片手まで言わずに、

→ ひとり居のひとり酒なり春の夢

「なり」は古語にはいろいろありますが、ここでは助動詞「体言、体言に準ずる語に付く」事物を断定し、または解説するのに用いる。
～である。～だ。の意味です。

21 ハナミズキささやきかける散歩道

・・・ハナミズキはアメリカヤマボウシのこと。日本にもたらされた逸話と共に、実際のアメリカ種を日本の気候に合うように改良してから、「ハナミズキ」として近年急速に街路樹が増えて彩りも華やかさも好ましい花です。「花水木」と季語になったのも最近。

ちなみに日本産の「山法師・やまぼうし」は別種で、これも季語。私はこちらの花が大好きです。アメリカで「2階からの花」と庭木に愛される理由が判るほどアメリカ種は花も大きい。そんな花の有り様が「ささやきかける」でよく判ります。

1句としては作者がハナミズキにささやきかけるか、ハナミズキがささやきかける散歩道なのが判りづらかったかな？ でも俳句としては擬人化よりも作者が話しかける気分が出る方が良いので、

→ 花水木にささやきかけて散歩道

22 春の日の急ぐ足音華やかに

・・・春は年度の始まり、気分も新たになるとき、急ぎ足の靴音も華やいで聞こえる。。新しい服に新しい靴かも。。と、想像が広がる1句ですが、「華やかに」が急ぐ足音でどんな音？とそぐわなかったようです。

→ 春の日や急ぐ靴音はなやげり

「春の日や」と切字で一定の断定を見せると1句が強くなります。「急ぐ靴音」でしょうか？そうすれば「はなやげり」も納得出来るかと思えます。

※「切字」は有り難い存在です。主に「や」「かな」「けり」ですが、「独り酒」の「なり」などの終止形も「切れ」。一句の中に一拍の余白が生まれ一句を引き締めたり、余韻を生んだり、様々な効果を示してくれます。

※三大切字については、後に書きますが、

一句がダラリとしそうなときには、何処かで深呼吸の一拍「切れ」を考えて下さい。芭蕉は「四十八文字すべて切字にならざるはなし」と言いましたし、俳句は十七音のどこかに切れがあることで、短さ、言いたらなさ、詠嘆を季語と共に引き出ししてくれます。

23 新緑の山を見る度リフレッシュ

・・・気持ちに共感、心身まで和らぎます。ガリフレッシュまで言って終っては「そうよね」と流して読んで終わります。

「そうよね」だけを初めて言われるとガックリ、ムカッとしますが、句会では単なる報告の句は「それがどうした」とか「それでなんぼ?」とか。「そうなの」のひと言。会話なら「失礼な」となる言葉ですが、句会では句の批評の端的な反応です。読者の反応を知るのが句会ですから、有り難い言葉なのですよ。

せっかく日本語の俳句です。日本語を使いましょう。

→ 新緑の山見るたびに生き返る

・・・やっぱり「そうね」です終わり。

そこで、下五はいろいろ考えられますが、1つの例として、

→ 新緑の山見るたびに旅のこと

どこかへまた出かけたいなあ。。と。これもリフレッシュですよ。

24 きらきらと日の出の道や春の海

・・・日の出の海に日の道が出来ている。。それだけで「きらきら」は想像出来ますよね。ということは、この上五は要らない言葉。

→ まつすぐな日の出の帯や春の海

遮るものなく日の出の光りの帯と作者が対峙している春の海。。気持ちの良い風景の中にも張り詰めた空気感も感じている作者を想像します。

25 頭だけ三つ見えるや燕の子

・・・燕は通常1回に五個ほどの卵を産むそうですが、育つのは三羽位らしいので納得です。巢から頭だけが見えている様子も納得です。

問題は下五の「や」の切字。。これは詠嘆、時に強調の「や」とも取れますが、俳句では通常、切字の「や」として上五中七と切れ離されて下五があることになります。

その問題を回避して、

→ 頭三つ見え隠れする燕の巢

(みつ)

頭だけが見えているなら巢立っていない「燕の巢」がふさわしいかと思います。頭以外の情報があると「燕の子」がハッキリします。

→ こゑ立てて頭三つの燕の子
(みつつ)

27 白川の柳に住みか螢の灯

・・・祇園あたりの白川にも螢が飛ぶそうです。

蜷の道(季語)を見かけるので、螢が出るだろうと見ます。ただ、螢は飛んでいるときには柳にもとまるでしょうけれど、栖は水辺。

→ 白川の柳に螢二つ三つ

「灯」は人工の灯です。螢は「火」です。「萤火」とか。

61 夏立ちて胸いつぱいの空気かな

・・・立夏だなあと思うと、思わず深呼吸する。。作者の動作に共感しますが、「空気かな」の使い方は間違っていないながら、「～だなあ」としみじみ詠嘆するにふさわしい言葉かしら。「かな」については後ろに纏めます。

単なる動作を句材に拾うのも佳い句になりますが、それだけに工夫が要ります。

→ 夏立つと窓いつぱいの深呼吸

今日は立夏だと、窓(を開けて)深呼吸。。作者の姿が見えるように。

29 芝居小屋近づいてくる祭笛

・・・悪くない作品ですよ。ただ、中七が上五に付くか下五に付くかが曖昧になりました。

※上五と下五が共に名詞の場合は、ややもすると、中七はどちらにつながっているの? となりますから注意しましょう。

では、原句に戻って、

→ 芝居小屋(へ)近づいてくる祭笛

芝居小屋は、たまたまそこにある? 必然性が見えにくいです。

→ 祭笛(の)近づいてくる芝居小屋

芝居小屋で、これから祭のなにか始まるのかしら? 祭に付きもの演目があるのかしら?

どちらでしょうか? 語順が変わるだけで、(へ)(の)の助詞がなくても判る句になります。

32 かたばみに見入る背中の優しさよ

・・・かたばみは背の低い可愛らしい花ですから、覗き込むような姿勢になります。その背中が優しいと。ただ、「優しい」と言われても、判るようでつかみ所のない茫洋とした感覚です。それ故に、短い俳句では、「優しい、可愛らしい」。等と

★日常的に使う形容詞使わないと、覚えておく方が良いでしょう。

その代わりに、そのことを具体的なコトやモノでどう詠み替えるかが俳句です。作者の言葉から「優しい」「可愛らしい」など解釈するのは読者の領分です。

→ かたばみに魅入る背中のまろまろと

太った人？、中年？老年？生命力？

細きとも →やせ形の人、手を差し伸べたくなる風情？、痛々しい病後？

ランドセル →小学生の下校姿

と、少し挙げるだけでもどれが良いか判りますね。

一句の中で具体的な「モノ」があると、一句がしっかりします。

41 石灯籠あいだに覗く子鹿かな

・・・まだ人見知りする子鹿の様子が見えるようです。

→ 石灯籠その隙間より子鹿の目

→ 石灯籠並みある隙（ひま）の子鹿の目

覗くより「目」として方が、こちらを伺っている子鹿の視線が出るし、子鹿のつぶらな瞳まで思い出します。

隙間は「隙・ひま」とも言います。「並み・なみ」は漢字のごとく並ぶです。

44 鬪病の父に菖蒲の風呂沸かし

・・・優しい心遣いです。「沸かす」まで言わずに、

→ 鬪病の父にしつらへ菖蒲の湯

47 鞦韆やかすかなゆれの残りをり

・・・だれも居ないのにブランコが揺れている。。良くある景色です。

誰かがさっきまで乗っていたのかな？風で揺れているのかな？ と想像を掻き立てる句材です

から、俳句には見逃せない視線です。それだけに類想は多いです。それよりも問題は「や」です。

先の「・・・や燕の子」も同じ問題がありましたので、この後に書きますが、

→ 鞆や誰か去りゆく気配して

とすると、問題は避けられます。

※※・・・三大切字「や」について・・・※※

※「や」は詠嘆を表す間頭助詞です。

※さまざまな品詞のいろんな活用形に接続します。

※上五、中七、下五と使われる位置も様々で自由度の高い助詞です。

俳句の切字として「や」使うと、

※「や」を挟んで前と後ろは違うことを述べる二句一章の句が作れます。

例えば、「夏草や兵どもがゆめの跡 芭蕉」

「夏草」がある場所に芭蕉の詠嘆の思いがあり、中七下五は「夏草や」を活かして異なることを詠んでいます。「や」の前と後ろは、二つのことが付かず離れずであり、これを二句一章と言います。

と、いうことで、切字「や」で切れると、上記の

25の、頭だけ三つ見えるや燕の子

では、「～や燕の子」となり、上五中七は別のモノのことになりますので、添削のようにしました。

47の、「鞆や」も、中七以下の「かすか揺れの残りをり」は何でしょう？ となりますから。

49 わが宿は朧月夜の独り酒

・・・楽酔会の方？「独り酒」がまた出てきました。

「我が宿は」と断定すると、宿を独り占めのような感じで？と思います。

→ 独り酌む宿にて朧月夜かな

ここは「かな」で万感の朧月夜としましたけれど、如何でしょうか？

※※・・・三大切字「かな」について・・・※※

※「かな」は詠嘆の終助詞。

※「かな」は、体言（名詞）か、活用語の連体形に接続するという原則があります。

そして、終助詞ですから、原則として文末、俳句も末尾に用いられます。

ただし、倒置法の場合は中七に来たりします。

★★「かな」で良くある間違い（歳時記の例句にあるときもあるので要注意）

例えば、

「長閑かな」×・・・形容動詞「長閑なり」の語幹で、「長閑」は名詞ですが、形容動詞の連体形ではありません。

「～にかな」×・・・虚子などにもありますが、文法的には間違い。
緩く解釈すれば「～に（名詞や連体形の言葉）かな」と（ ）があると解釈されますが、我々は使わないことです。

54 藤の香を母の夢にも届けたし

・・・「母の夢」が判らないのですが。外出が叶わないお母さまへの思いかしら？
お母さまの元へ藤の香を届けたい？

→ 籠もりみる母に藤の香届けたし

よろしければ状況をお教え下さい。

58 願掛けの釣灯笼に青葉風

・・・春日大社等もたくさんの奉納釣灯笼が並んでいます。そんな光景でしょうか？
ここは「に」よりも「や」で切るか、「ぞ」「よ」で軽く切った方が景色が広がると思います。

→ 願掛けの釣灯笼や青葉風

59 駄菓子屋に人の少なく燕の子

・・・視点の良い句です。駄菓子屋は子どもが自由に出入りできる楽しみの場。
でも最近駄菓子屋も少なくなったし、出入りする子どもも減ったし。駄菓子屋の存在だけでも貴重な町の風景です。が、「人が少なく」では訴えてきません。

→ 駄菓子屋に来る子少なし燕の子

「少なし」と切ると「燕の子」が生きています。俳句はズラズラ詠まず、何処かで「切る」ことを考えましょう。

62 初かつを香味従え堂々と

・・・土佐の豪快な皿鉢の鰹を思い浮かべます。これでもかと薬味が盛ってある。チマチマしたお皿なら、どこに鰹があるのというほどに。
それを「堂々と」と詠んで下さって嬉しいような、懐かしいような気分です。
「かつを」は○で、仮名書きも良い感じです。

→ 初かつを皿鉢に香味たんと盛り

これが私の実感ですけれど。。。

65 山道の配管に鳴く雨蛙

・・・雨蛙の啼き声は田んぼの蛙のように甲高い鳴き声でなく、ケロっケロっという感じでよく聞き止めましたね。しかも配管の中では姿は見えないでしょう？
景色のすべてを言ってくれているのでよく判りますが、俳句としては判りすぎる感があります。配管もなんだか可哀想ですね。

→ 山道のこのあたりかや雨蛙

声は聞いたわけだから、見えてないことを詠む方が詩的です。

66 青時雨稽古道具を持ちにけり

・・・青時雨で、若葉の頃の降りみ降らずみの雨。傘を差さないと濡れるし、だからといって稽古道具を持っているし。。さてどうしたものか。が「持ちにけり」と「持っていた」の事実だけでは詠嘆が浮きませんか？

→ 稽古道具持ち歩きけり青時雨

※※・・・三大切字「けり」について・・・※※

※「けり」は詠嘆の表す助動詞です。

※「けり」は活用語の連用形に接続するという原則があります。

その点で「青時雨」の句は「～に」と連用形に接続していて間違っていない。

「けり」には歳時記でも見かける、間違いやすい誤用があります。例えば

★「～涼しけり」×の使い方です。これは形容詞「涼し」の終止形です。

「涼し」の連用形は「涼しかり」ですから「涼しかりけり」が○です。だから、「形容詞連用形～かり」の場合は「～かりけり」となると覚えておくと便利です。

★★切字は、言葉で述べるよりも、ずっと多くのことを表してくれますが、忘れないで欲しいのは、一句の中で「や～かな」「や～けり」と2つの切字を使うのはも御法度の×です。

理由は、短い一句の中に詠嘆するところが2ヵ所あると、混乱して、どこに感動があるか判らなくなってしまうからです。

なんだかやこしいようですが、間違いを繰り返せば覚えます。それよりも、

★詠嘆は、感動や感嘆の思いも強調してくれます。

せっかく文語で詠むよさも活用できます。上手に使いこなせるようにたびたび使って練習して下さい。

67 上げ下げの母の手伝ひ鯉のぼり

・・・鯉幟はお天気もさることながら、毎日出したり入れたり作業があり。。そのお手伝いをすると。

「上げ下げ」は鯉幟に含まれたこと。言うなら別の言葉を探しましょう。例えば「朝な夕な」俳句は通常一句の一人称は作者と決まっていますから、

→ 手伝つて朝な夕なの鯉幟

でも、母の作業を見ているだけの作者とは思わないのが、読者としての目線のあり方、

→ 母の手に朝な夕なの鯉幟

通常は力仕事だから、「父の手に・・・」となるところを「母の手に・・・」として、今どきの家庭も見えて新しさでしょうか。

81 友語らひ時は止まれり初夏の月

・・・友達と時間を惜しんでいる初夏の夜は判りますが、「止まれり」は?? ですよ。

→ 語らひに刻の止まりし初夏の夏

→ 語らひの時とどめたし初夏の夏

82 鯉のぼり出せず罪滅ぼしの鯛

・・・お気持ちは判りますが、「罪滅ぼし」まで言つては「鯛」が台無しです。

→ 鯉のぼり出せずと桜鯛の祝ひ膳

季語を打ち消しては季語になりませんので、ここは春の季語「桜鯛」。端午の日とすると時間的ズレがありますが、鯉幟は一ヶ月は飾りますので、その間、何かの事情があるでしょうと読者に思わせておきましょうか。

83 黒き影鳥居に残す夏の蝶

・・・蝶は飛んでいるでしょう？それとも黒き影を遺しているなら死んでいるの？

死んでいるなら影ではないよね。など疑問が幾つも出てきます。
ここは飛び去ったとして、

→ 黒き影の鳥居過ぎるは夏の蝶

87 ひとり身となれば老父とこどもの日

・・・上五の言葉からの推測ばかりですが、
いま現在はひとり身になられた作者とお父様でこどもの日を。とすることでしょうか？

→ ひとり身となれば父との子どもの日

88 そうかもう必要ないね更衣

・・・作者の呟きと読めば、身に滲むような言葉ですが、俳句としては、材料の言葉から推測するばかりです。

亡くなりになったから、更衣が必要ないのね。と？

→ 父にもう必要のなき更衣

★言い過ぎもダメよと、「この言葉は余分」「要らない言葉」などクレームのような物言いがありますが、言いなさ過ぎて読者に伝わらない観念だけの言葉も、困ってしまいます。

その言葉の有無、必要最小限の言葉は？不要で省略すべきか？

その頃合いが俳句の難しいところですけど。これも慣れることがいちばんの近道です。怖じけず作って下さい。

★わざわざ老父、老夫、老母、老妻などと詠む必要はありません。「父母夫妻」で充分です。
ご高齢かな？などと推測するのは読者です。

ちなみに、

「三輪車」の選評に「子どもと競ふ父」を、お爺さんと解釈して居た人がいましたが、これは間違いです。

「三輪車の子」の「父」ですから、若い父親です。

★一句は作者がどういう意味で作っているかを、読者は推測すると同時に、読者の感性で、作者から離れて自由に読むことが許されていますが、ポイントは外さないこと。

私の添削も、出来るかぎり作者の意図に添うように推測して、可能な限り作者の使っている言葉を使うように心がけています。

まったく違う言葉を使うと、もっと良い句になる可能性も秘めています。だから、後から別の良い言葉やよいシーンに気づかれたら、遠慮なく直してご自分の作品にしてください。

いろいろ五月蠅ことを途中に書きましたが、そういうものか?!と読んで下さい。これからも、何度も書くことにもなることも多々ありますから、気楽に。文法は間違っ注意されて身につきますから、あまり気にしないで。

ご辛抱下さり、長々お読み頂き、ありがとうございました。私も長距離を走ったほど、腕がフラフラです。。

ご質問、反論、何でもご遠慮なく。

葉子

(裕子さんから)

素晴らしい!

エネルギーが!

アドバイス

読むだけでも エネルギーが!

どの講座でもこれだけ懇切には。

ついていけないけれど、続けて^_^ 焦らず学びます。

先生のお熱はいかがですか?

iPhoneから送信

裕子さまですね。

恐縮です。ありがとうございます。

ただ初心者の方の句会ですから、責任感だけです。

時間が建って気が抜けるのは元も子もなくなるので、1度にたくさん書くだけです。

たくさんでうんざりでしょうが、ボツボツ読んでみて頂きますように。読んでも、その時は??

はよく判ります。そういうものです。

でも、読んだことでの理解は後から付いてくる。。これも、そういうものです。判らなかつたところは判らないと指摘して下さい。感覚で言葉になりにくい点もありますから、出来る説明はさせていただきます。

1度で判れば何十年も俳句を追い続ける人は居くなるはずですが、私などまだまだ、繰り返して続けていますから。気の長いことが勝ちかも。。長生きの種にしましょう。

ご心配頂きました熱はやっと今日の午後は上がっていないはずです。咳は時々悩まされていますが。私は風邪引くと後が長いのは常ですからご心配なく。と仕事しています。

葉子

葉子です。スママセン先に送ったメールを2つ訂正します。

■→ 鯉のぼり出せずと桜鯛の祝ひ膳 → 字余りでした。

→→ 鯉のぼり出せずと桜鯛の膳

■→ 黒き影の鳥居過ぎるは夏の蝶

→→ 鳥居過ぎる黒き影あり夏の蝶

葉子

惠です。

パターンに分けて細かく教えて下さるので、1回目はへこみましたが、今回はよくわかります(わかるような気がします)。

ところで、下記の句は私の句です。

>54 藤の香を母の夢にも届けたし

「よろしければ状況をお教え下さい」・・・のお言葉に甘えて。

少し前に脳梗塞で昏睡になった母を毎週見舞に行きますが、医師はまったく意識がないといい、我々息子娘は話しかけたら届いてるはずやと。それで見舞に行くたび今日あったことを子ども時代のように母にしゃべっています。

最初に出来た句は

寝る母の耳に口寄せたまいまと

で、ありゃ、季語がない・・・

「なんの夢見ているのかなあ、春だよ、外はきれいだよ」

昏睡かもしれないけど母に伝えたくて、目は開かないけど匂いなら夢に配達できるかな、と作り直したのがこの句でした。

あんまり深刻ぶりがたくないし、感情過多もいやだし、さらっと楽天的に書きたい。どうしたらいいでしょうか。

惠さま

お忙しいのにご丁寧ありがとうございます。お母さまのこと、不躰に伺って失礼しました。

私もひとり相撲にならないように心がけては居ますが、お返事頂くと心強いです。個人宛に返信しましたのに、コピーして再送します。

惠さま

さっそく返信ありがとうございます。

お母さまのご様子ご心痛ですね。私など明日は我が身の思いです。

深刻ぶらず。。。のお言葉は俳句の心構えとしては適切なお考えです。

作品は何処で公になるもの、私生活を詠んでも読者の存在は意識せざるを得ない「作品」ですから、難しい面がありますが、思いを吐露することも可能です。

作品の中には「母覚めよ・・・」という強い願望の作品もありますが、これも詠み方次第。

惠さんはここまで言いたくないのではかと拝察します。

私は勝手な想像で「隠りゐる」としましたが、ご病気らしい程度の表現にするとすれば、

→ 藤の香を臥しゐる母に届けたし

→ 藤の香や母の臥しゐるところまで

お心に添えるかどうか心許ないですが、こんな詠み方も出来ます。

俳句は日記にもなります。発表しなくても日々の思いを書き留めるつもりで、

どうぞ心ゆくように書き留めて行って下さい。その中からも良い句が生まれるでしょう。

お母さまお大事になさって下さい。そして、お忙しい惠さんも、どうぞ毎日をお身体第一にお過ごし下さい。

葉子

葉子先生 皆様
惠です。

拙い句(54 藤の香を母の夢にも届けたし)に対し 深いお心からのお言葉と添削ありがとうございます。

ほんとおっしゃるとおりです。母は非常に高齢ですがその生命力には驚嘆、この脳梗塞はもう克服すべき病気ではなくて、衰えゆく母の命のひとつの姿と思い、「今日も穏やかに眠って生きてはる、ほんま、めでたい、ありがたいわー！」という感じです。

だから、他の方が私の句を「うっかりうたた寝してしまった母が、外出から藤の香りを纏った娘が近づいたときふっと目覚めて『あらっ、ねちゃってたわ』と恥ずかしそうに起きるシーン」を想像してもらっても全然構わない。むしろ、そうやって、叶わない私と母の目覚めのやりとりが、他の方の心の中に起こったら・・・嬉しいかも。病気がぼくなく、すやすや寝ている、という感じにしたくうんうん唸りました。

俳句、すらっと、素直に、日記のように、ですね。日々のことばの肥やし・・・気の利いた言葉がでてこず悩みます。

このたびはいろいろとありがとうございました。

皆様

和夫です。遅くなってすみません。

句会報に載せるための修正済みのご自分の句を1句、和夫宛に6月3日までに送ってください。

よろしくお願いします。

作者がわかった後の議論もどんどん続けてください。質問もどうぞ。その後、修正した句の発表も歓迎です。

句	作者	選者
1 山の線澄んで鮮やか雨の後	年男	
2 生垣に真つ赤な苺ふさふさと	和夫	
3 草スキーバツタと競い風を切る	美鈴	未緒、年男
4 新緑や父を追い越す三輪車	和	和夫特選、裕子、陽一、真紀子、 苑子、春菜、葉子
5 桜の実あちこちにある四分音符	春菜	陽一、苑子、由里子
6 宮参り至福のババに五月晴れ	裕子	
7 残雪を赤く染めたる夕日かな	智子	佳代、由里子
8 初夏やひばり楽しむ山の風	苑子	
9 水田は空まんまんと堪へけり	和	美鈴、智子、由里子、葉子
10 万国旗春の祭の船出かな	惠	

11	小屋の前に茶摘婆らの集まり来	和夫	
12	こどもの日過ぎた公園柵もなし	裕子	
13	飛び石の連休ありて疲労気味	年男	
14	空一面舞う鯉のぼり大歩危峡	由里子	
15	東山滴るごとに丸くなり	苑子	恵
16	ひとり居は徳利片手の春の夢	智子	由里子特選
17	老鶯と呼べど若啼きありにけり	葉子	美鈴、智子、和
18	「このたびは」聞くたび溢る熱きも	未緒	
19	フランス人哲学の道で風薫り	苑子	
20	新社員企画に載せる明日の夢	裕子	
21	ハナミズキささやきかける散歩道	美鈴	年男
22	春の日の急ぐ足音華やかに	智子	美鈴
23	新緑の山を見る度リフレッシュ	年男	由里子
24	きらきらと日の出の道や春の海	由里子	
25	頭だけ三つ見えるや燕の子	由里子	恵、智子
26	麦般若最後くらいは恵比寿かな	未緒	
27	白川の柳に住みか螢の灯	年男	
28	鯉のぼり乱舞する影追う子供	由里子	和、年男
29	芝居小屋近づいてくる祭笛	春菜	
30	初夏が来て室温計も大慌て	年男	
31	春の雨遠くの山に霞かけ	智子	年男
32	かたばみに見入る背中の優しさよ	未緒	
33	惜春や効かなくなりし糸切歯	葉子	陽一
34	ロープウェイうららに欠伸で動き出	恵	
35	大雨を随へ五月の雨女	和夫	佳代
36	雨去りて夏霧昇る東山	苑子	和夫、美鈴、真紀子、由里子、 年男特選
37	総会の季節到来梅雨近し	年男	
38	風青し何知らぬ孫まだ3つ	未緒	佳代
39	父逝きて愛せし若葉さらに濃く	未緒	真紀子特選
40	木洩れ陽にいのち輝く皐月の日	裕子	
41	石灯籠あいだに覗く子鹿かな	佳代	恵、智子特選、未緒
42	新緑のもと手拭ひの忘れ物	佳代	真紀子、葉子
43	舞い桜心模様を映しけり	智子	
44	鬨病の父に菖蒲の風呂沸かし	真紀子	裕子、美鈴、苑子特選、未緒
45	新緑の注ぎて別府湾光る	和	佳代
46	若葉風夢見るように眠りたし	和夫	春菜
47	鞆鞆やかすかなゆれの残りをり	和	和夫
48	見渡せる甕照り映ゆ春の風	恵	
49	わが宿は朧月夜の独り酒	智子	

50	蒲公英の絮去り残る母思ひ	苑子	
51	思ふことままならぬまま春が行く	陽一	真紀子、未緒
52	冷やし蕎麦いつもの店に夏来たり	真紀子	未緒特選
53	山藤にからめとられし大樹かな	陽一	裕子、春菜、葉子
54	藤の香を母の夢にも届けたし	恵	
55	地獄谷満天星ふわり蓋	恵	陽一
56	艶々の柏餅喰ふ孫笑ふ	由里子	美鈴特選、苑子、和、佳代
57	風青し春日大社はあと少し	佳代	
58	願掛けの釣灯籠に青葉風	陽一	
59	駄菓子屋に人の少なく燕の子	春菜	和夫
60	紫陽花が今年も咲くぞと芽がいっば	裕子	
61	夏立ちて胸いつぱいの空気かな	佳代	
62	初かつを香味徒え堂々と	美鈴	智子、未緒
63	初夏の大根にある辛さかな	葉子	
64	学名に「雑草」は無し昭和の日	和夫	裕子特選、和
65	山道の配管に鳴く雨蛙	佳代	陽一
66	青時雨稽古道具を持ちにけり	春菜	恵特選
67	上げ下げの母の手伝ひ鯉のぼり	春菜	
68	露天湯にぶかぶか椿花と肌	恵	
69	草笛の吹き方教わり草を摘み	春菜	
70	春愁や胎内仏の結ぶ印	陽一	
71	麦熟るる風を寄こして讃岐富士	葉子	和特選、佳代特選
72	手書き文字乱れ八十八夜寒	葉子	和夫、陽一特選、恵
73	五月晴れオーケストラの和の共創	裕子	
74	葉柳の袂を借りて昼休み	真紀子	裕子、春菜、葉子
75	川床に気持ちかはやり夏支度	美鈴	年男
76	紫雲英田や吊ひの列短くて	和	苑子、葉子特選
77	南阿蘇鉄道の一部開通山笑ふ	和夫	
78	参道をのらりと蝶と同行二人	真紀子	
79	待ちきれず皮もほうばる庭の枇杷	美鈴	智子
80	菖蒲風呂けふは浴衣にしとこうか	真紀子	裕子
81	友語らひ時は止まれり初夏の月	苑子	
82	鯉のぼり出せず罪滅ぼしの鯛	真紀子	春菜
83	黒き影鳥居に残す夏の蝶	佳代	和夫
84	タンカーの島とも見ゆる薄暑光	葉子	苑子、和
85	瀬戸内の多島海へと春落暉	陽一	春菜特選
86	地藏尊微笑みおはす木下闇	陽一	恵
87	ひとり身となれば老父とこどもの日	和	真紀子
88	そうかもう必要ないね更衣	未緒	

句会報

新緑の眼下に別府湾光る	和	添削採用
石灯籠並みある隙の子鹿の目	佳代	添削採用
雨去りて夏霧昇る東山	苑子	
→早暁を夏霧昇る東山		
朧々と夏霧昇る東山	苑子	
新緑の山を見る度リフレッシュ	年男	添削無視 すすめたらOK
新緑の山見るたびに旅のこと	年男	こちらに
麦秋や友へ差し出す祝ひ酒	智子	該当句がない? 問合せ
31 春の雨遠くの山に霞かけ		
春の雨遠くの山の消え失せて	智子	
駄菓子屋に来る子少なし燕の子	春菜	添削採用
宮参り至福のババに臯月晴れ	裕子	添削無視 問合せ
初夏の朝晴れ上がり宮参り	裕子	すすめたらOK こちらに
菖蒲湯のけふは着物と致たさうか	真紀子	添削採用
父逝きて愛せし若葉さらに濃く	未緒	
→父逝くや父の愛せし若葉濃き		
薫風や鳥と競うて草スキー	美鈴	添削採用
藤の香や母の臥しみるところまで	恵	添削採用
まつすぐな日の出の帯や春の海	由里子	添削採用
山藤にからめとられし大樹かな	陽一	
老鶯と呼べど若啼きありにけり	葉子	
学名に「雑草」は無し昭和の日	和夫	

和さま
葉子です。

ご質問について、
適切な応えになっているかどうか心許ないですが、・・・「七つのや」のうち「はのや」
のつもりで詠みました。

この意味は判りかねますので、お応え出来ませんが、

47 鞆韃やかすかなゆれの残りをり 小嶌 和

「鞆韃」の句については、書きましたように「や」の切字。

これを強調、詠嘆のみの「や」と解釈することも出来ますが、やはり俳句のパターンと
しては「切字」と解釈されます。

この形だと、中七下五と上五の季語はある程度の間合いで切り離され、二つのモノ、コ
トを詠んだ二句一章の句と解釈されます。

どうしても「子ども」にしたい作者の思いなら、

→子が去りし鞦韆に揺れ残りをり

とすれば、ハッキリしますが、仰るように「子ども」とあると、ブランコ=子どものパターンで目新しくはなく類句は多いです。

→鞦韆にかすかな揺れや日暮れ来る

下五に時刻を示唆する言葉を入れることも可能です。

加えて言えば、

鞦韆=ブランコ→子供の、常識的思考回路に縛られることはないと思います。

俳句における思考の幅は広く、かつ新鮮さを良しとします。

日常的なことでも、「そうか！見逃していた！」「そんな詠み方があったんだ」と読者に感動を与える一句にしたい、がコツです。

詠む人も、読む人も思考の幅は広く、想像の幅は広く常識に絡められないように気をつけたいです。

あと一つ、

鞦韆=ふらここ=ブランコの事ですが、本来の鞦韆は、子どもの遊び道具ブランコとは成り立ちが違います。

「鞦韆」の言葉は、紀元前7世紀に中国北方の異民族の寒食の節に鞦韆に乗って遊ぶ習慣があり、中国に輸入され、それを唐の玄宗皇帝が鞦韆の羽化登仙の感にちなんで「半仙戯」と名付けた。

宮廷人達が戯れに、また盛装の宮女達が裾を翻して戯れる艶な場面として、漢詩に頻繁に詠まれた言葉です。

その言葉を春の季語として、のどかでのびやかな春の遊戯としての季語になった。日本では寛文の頃に「鞦韆の戯れ」と初出しているようで、「半仙の戯れ」と併出するそうです。

「ふらここ」「ゆすはり」は日本の古語です。

簡単な歳時記には「鞦韆は遊具のぶらんこのことである」としか書いていませんが、分厚い詳しい歳時記には、このように語源も書いてあります。季語として使う時には、句意と合わせて季語の成り立ちに考慮する必要もあります。

「鞦韆や誰か去りゆく気配して」

この句の「誰」は子どもか、大人か、あるいは孤独な老人かと解釈するのは読み手次第です。作者が書いていない余白こそが俳句の余情ですから。だからこの添削は、季語からの発想と解釈して頂ければ幸いです。

和さんの句意ならば

「ふらここの・・・」「ぶらんこの・・・」がよりふさわしいかと思います。

良い回答になったかは判りませんが、いずれ、少しずつ違いがお判りになると思います。

私も、初心者の方は判らないことが多くて、美智子主宰に質問しても「そのうち判ります」としか応えて頂けませんでした。「そこからが自得ですよ」という意味が込められていたと思っています。

ただ、私は至らないながら出来る限りお応え出来ればと思っていますので、こんなご質問は大歓迎です。特に簡単な言葉のみで添削しますから、どうして？の疑問をぶつけて頂くと補足出来ますので、有り難いです。

ありがとうございました。

葉子

和です。

句会報に掲載していただくのは、
新緑の眼下に別府湾光る
をお願いします。

一つ質問があります。

47 鞆やかすかなゆれの残りをり 和
は、

「七つのや」のうち「はのや」のつもりで詠みました。

春の夕暮れ時に子どもが帰った後の公園、という時間を詠みたかったのですが、「はのや」では伝わらない（弱い？）でしょうか。

もしくはあまりにも、よくあるシーンなので、俳句にする必然性がないのか。。。

修正していただいた「鞆や誰か去りゆく気配して」は、ブランコの揺れが残る様と、目の前だけではない場所の広がりがあって、短い句から広がる意識や普遍性に通じる素晴らしさを感じました。

が「誰か」が子どもではないように思い（だからこそ余韻でもありますが）、どうするのがよかったかなと考えています。

和夫先生、葉子先生
苑子です。

色々ご教示をいただきありがとうございます。とてもとても勉強になります。

それで句会報には、アドバイスをいただいた以下の句でご掲載いただけると幸いです。

朧々と夏霧昇る東山

ちなみに、???とさせてしまいました以下の句は、蒲公英の綿毛が飛び去って、丸坊主で残されたジクの部分に子供の巣立った後の「母」（個人的な意味ではなく普遍的なものとして）の姿を詠みたかったのですが、全くうまくいきませんでした。

50 蒲公英の絮去り残る母思ひ

自分自身の中の語彙の少なさが大きな壁。。ちよくちよく辞書などを眺めて、ポケットを増やさないとなあ。。とっております。まずは「朧々と」を頭に辞書登録いたしました。

引き続きご指導のほど、どうかよろしく願いいたします。
すずきそのこ

和夫です。
切れ字の「や」について、
「船団」の下記のページを参考にしてください。

<http://sendan.kaisya.co.jp/kotobak200401.html>

和夫さま、ありがとうございました。

「七つのや」は「や」の用法七つと想像出来ましたが、「はのや」が判らず。。良い勉強になりました。

ただ、この「はのや」は、意味が判れば、現在の俳句では、よく問題になる「や」で、詠みが甘いと読者の解釈が賛否出て危うい句になり、そこが作るときの選択として難しいところと感じています。

例句は「住吉や」と地名を打ち出したことで、例句になるだけの骨格の句と思いました。

葉子

苑子さま
葉子です。

迷っていらっしゃる件について私の感想です・・・

50 蒲公英の絮去り残る母思ひ

・・・例えば、この句会がメールでなく、メンバー15人が一同に集まった句会だと、

この下五の「母思ひ」をどう解釈しましたか？

と、その場で全員に聴けるから、みんなの意見や反応がよく判るのですが。。
みなさん、どのように解釈されましたか？ 作者の意図は分かりましたか？

その反応や意見で、自分の意図と一句の表現の齟齬やズレや拙かった点がよく判ります。
これが句会の成果ですし、俳句に句会は欠かせない、他者の読みが絶対に必要な理由です。

本当はここで、みんなの意見がすぐ出揃うと、そこからが出発点ですが、なかなか即メールは無理のようで、今回は私の意見を書きます。

苑子さんは、蒲公英の絮を巣立ちの鳥のように思われたのですね。だから、その後に残った茎の丸坊主を「母」と見立てたのです。俳句には「見立て」という詠み方もありませんが、
その見立ては、読者の納得や共感を得てこそ一句として成り立ちます。

あの茎の丸坊主の部分、擬人化であっても、「母」でしょうか？ 私は、「母」というのは無理があると思います。たしかに蒲公英の絮がくっついていた場所です。人間に例えれば子宮の役目、その意味では「母」ですが、鳥ならば巣に近い役割かしら。。といろいろ想像を巡らしますが。。

作者独特の見方は大事ですし、大切に読みたいけれど、作者の解説なしに、かつ一句では説明せずに、が俳句ですよ。

だから句会の結果として、読者に判って貰う措辞ではなかったかなあ。。私の観念的な感覚だったかなあ。。と思って頂ければと思い一句、

- 蒲公英の絮去りしのち風残る
- 蒲公英の絮飛び去りて風残る

絮は飛んでしまっても、まだ風は吹いている。。こんな場面はありますよね。このように、観察から得た句は、作者の観念が入らず、その上で、「よく見ている」作者の視線が残ります。

如何でしょうか？

葉子

みなさま 序での葉子です。

まず、最初にお願いです。

せっかくのメール句会ですから、可能な限りスピーディに出来ればと思います。

お互いのやりとりはあまり時間を置かずに、出来れば間髪を入れず返信返信しませんか？

どなたも超のつくお忙しい方ばかりで、ご事情もお有りかと思いますが、和夫も私も、寝る時間も削る後期高齢者で、みなさんに負けずに劣らずの多忙です。

こんなお願いをする理由は、例えば、私なら、この方に、はて何を書いたかな？と遡って確認しなければならない現状です。

なにしろメール句会も幾つもあり、別途に添削を頼まれていることもあり、一ヶ月に数え切れないほどの作品に接して、同じようなメールをしていますから、老齢の記憶力は追いついていきません。

句会の仲間同士でも、「人様の作品から学ぶ。これが大事」と言われても、時間を置くと、お若い方の記憶力なら、他者の作品とそれに纏わることでも、キチンと覚えていられますか？ 改めて、はて？ さて？ では読み流すだけになります。

お互いにしんどい思いで時間をヤリクリして句会をしていますから、やりとりがスピーディーであってこそメール句会の良さです。

せっかくですから、お互いに句会の成果が身につくような進行して行きたいと思います。よろしくをお願いします。

2点目、

俳句の「読み」は「詠む」と伴走しますので、苑子さんの御句を例にお借りて、

→ 蒲公英の絮去りしのち風残る

→ 蒲公英の絮飛び去りて風残る

この句について、鑑賞してみてください。

ご自分の感覚で読み取って、文章化することが鑑賞ですよね。その時に、この句の眼目は何？。。この十七音からどんな感じを抱いた？どんな景色が見えて来ますか？

この感覚が、ご自分の句を作るとき、作った後で推敲するときの力量になります。お時間のあるときに、遊んで頂ければと思います。

葉子

葉子先生

ひとつひとつ、なるほど納得な気持ちです。

そもそも感情移入が過剰で、人びとの共感から遠いところにひとりよがりしてしまう傾向があるのかもしれない。

そんな気づきを持って、次の句に向き合います。

引き続きどうかよろしく願いいたします！

すずきそのこ

葉子様

和です。

不躰な質問にも関わらず、大歓迎と仰ってください、ありがとうございます。私は、以前にご紹介いただいた初心者向けの書籍とともに、「NHK俳句 今日から俳句」（片山由美子著）も参考にしています。

この中に、22古典の切れ字に学ぶ、のp132に「昔から「七つのや」といわれてきました」とあり、

①切や（きるや）	あけぼのやしら魚しろきこと一寸	芭蕉
②中のや（なかのや）	早苗とる手もとやむかししのぶ權	芭蕉
③捨や（すつるや）	若葉して御目の雫ぬぐはばや	芭蕉
④疑のや（うたがひのや）	梅白しきのふや鶴を盗まれし	芭蕉
⑤はのや	文月や六日も常の夜には似ず	芭蕉
⑥すみのや	むざんやな甲の下のきりぎりす	芭蕉
⑦口合のや	春やこし年や行きけむ小晦日	芭蕉

の例がありました。

「切れ字として機能しているのは①④⑤」とあります。

「⑤の「や」は主格を示すもので、意味的には「は」や「が」に置き換えることができます。

こうした「や」も珍しくはありません」とあって、p56には、「上五に季語が置かれているため、

一見取合せのようでありながら、じつははそうでない句がありことです。」と、例として、

寒紅や鏡の中に火の如し 野見山朱鳥
夕顔やひらきかかりて襷深く 杉田久女
水仙や古鏡の如く花をかかぐ 松本たかし

がありました。

5月のメール句会では、切れ字の「や」を使いたいと考えておりました。その中でちょっと違う使い方も、と思ったことが、結局ありきたりな風景を描いただけになってしまったことを反省しております。感動を与える一句を目指して頑張りたいと思います。

苑子さま
葉子

さっそくご丁寧にありますありがとうございます。

俳句にも詠み方のようなものがありますから、慣れてこられると、だんだん呼吸が判りコツが掴めると思います。これがみんなの道程です。
焦らず弛まず諦めず。。で行きましょう。

蒲公英の句、お心に合えば、どうぞお使い下さい。直しがあっても作者の作品は作者のものです。

葉子

葉子様、苑子様

和です。

スピーディーな返答は、いただくとほんとうに嬉しいです、まずは返答してみることも学習メール句会の目的の一つ、と思い、拙速は承知の上で感想を送りたいと思います。

50 蒲公英の絮去り残る母思ひ

この句を読んで思ったのは、「タンポポの白い綿毛も飛んでいって、いよいよ春も終わり、ひとりで（実家に）残っているお母さんはどうしているかしら」という意味かなあ、と。タンポポ＝今ここ（作者が見ている風景）、母思ひ＝連想（作者の脳内に呼び起こされた思い）というように読みました。

選評の中で、葉子さんが「動詞は一つ」と書かれていましたが、「去り」と「残る」の二つの動詞が、それぞれ違う主語を抱いているので、たくさんの解釈が可能になり、それがわかりにくくなってしまったのだと思います。

先ほどのメールでご紹介した「今日から俳句」の中に、「俳句は大きなものを圧縮するのではなく、五音、七音の言葉で全体を組み立て、むしろ小さなものをふくらませてゆくのです」とありました。

初心者向けの本です。苑子さん（そして私も）、まずは、小さなものから始めていきましょう。

和さま

お忙しいのにごていねいに返信ありがとうございます。

「や」について、仰ることはよく判りますよ。

私は「や」の用法は知っていましたが、あのような呼称は不勉強で知れませんでしたか

ら、

和夫のMailに、今回の片山由美子さんの文中も加えて頂き感謝です。

「はのや」は、

「は」または「が」に置き換えられる「や」、

言い換えると、「は」または「が」の意味の「や」である・・・ですよね。

ただ、和夫のMail文中にもありますように、句会では？ が出される例が多いです。

私どもの句会でも実際に経験しますが、やはり使い方が曖昧だからです。

片山さんはさすがに本として抜かりなく書いておられます。

要は、作句の時に気をつけたい大事なことは

「はのや」を「～や・・・」として使う時には、「～は（が）・・・」として句意は変わらず置き換えられる事が肝心です。

御句の

鞆や微かな揺れの残りをり

は、鞆は・・・とか、鞆が・・・ではなく、普通に詠めば「鞆に・・・」の「に」になりますよね。

その点で「はのや」ではないと、この時点でも思っております。

文月や六日も常の夜には似ず 芭蕉

寒紅や鏡の中に火の如し 野見山朱鳥

夕顔やひらきかかりて襷深く 杉田久女

水仙や古鏡の如く花をかかぐ 松本たかし

片山さんが例句に挙げている句もすべて「は」か「が」で通じる句ですよ。

これが肝心な点で、例句として佳句をキチンと挙げておられます。

なお、e 船団の記事を隅々まで読むと、切字になるのは、①と③と、弱い⑤の「はのや」とあります。

私は③はどうかかなとも思いつつ、納得しました。片山さんの④疑問の「や」は、文法の本で確認します。今は夜中で・・・

なお、「や」については古くから多々変遷があるみたいだし、「や」だけでなく言葉も文法も時代の変遷で変わっていますから、

文学部出身でもないし、まして国文の研究者でもないし、俳句も専門俳人にはほど遠いし、いま現在に使われている説で納得の行く用法を確認しながら使いたいと思っています。

比べるべくもない拙句ですが、「はのや」は私の今までの句にもいくつかありますし、まったく使わないわけではなく、今も作っています。

和夫にも、「氷室」の作品にもあります。

もう一つ読み違えないで頂きたいのは、俳句に方程式はなく、1句ずつの微妙な違いが

見えにくいので、思い違いをしやすい落とし穴があります。
一見こちらが正しいという答のようで違うんだよね。も存在します。
そのあたりのことを。
その時その時立ち止まって探って行くしかないと思います。

ことほど左様に、句会のひと言ではなかなかすべてを言い尽くせないし、本を書くようには行き届きませんので、ひと言では伝わらず納得出来ないこともあるでしょう。
だから、こんなご報告も有り難く拝見しますし、どうぞ佳い入門書や佳い作品を読んで、自学自習にして頂ければと思います。
先にも書きましたが、私もそのような手探りでやって来ましたし、現在進行形です。

葉子

葉子先生、和先生

コメントをどうもありがとうございます！
自分が詠んだ句が他の方の頭の中にどのように描かれたのかを伺うのは、本当に勉強になりますね。
そして、小さなものを膨らます！
少しずつトライしてみます（！）

そのこ

苑子さま 和さま みなさま

観念から如何に逃れて、言いたいことを他人に判るように詠むか、初心の時に私も苦しみました。今も苦作です。
芭蕉は「三尺の童にさせろ」と言いましたが、我々も子どもの感性に学びましょう。

6月の句会に向けて、理屈はともかく、まず、リズム感のある気持ちの佳い句を呟くように作ってみましょう。
感覚が良いことがいちばん大事です。
理屈が先に立つと良い句にはなりにくいです。
作るときは理屈は忘れて、「こころと身体感覚」で作しましょう。
「頭で作らない」をお忘れなく。
間違いや理屈は、後から注意されれば佳いのですよ。そこを苦しめず何度でも潜り抜け、頭ではなく、感覚で身に付けると感性の良い句になります。
しかもキチンとした句になっていきます。理屈は後から付いてくる・・・です。
と、言いながら投句する句が無いなあ。。。の私です。
葉子

葉子様
和です。

深夜にも関わらず、さまざまな角度から丁寧にご説明いただき、ありがとうございます。
まだまだ返答できることが、いただいたアドバイスや解説の1割にも満たなくて、ほん
とうに申し訳なく、情けなく思います。

初学者へということで、ひとつひとつ、しっかりと解説してくださっている、葉子様か
らのメールは、とにかく折にふれ読み返すことで、だんだんに、身についてくるものと、
いまはきっと葉子様から見れば、糠に釘状態だと思いますが（ほんとうに申し訳ありま
せん。。。）、どうぞ、今後ともご指導くださいますよう、よろしくお願いいたします。

葉子先生
アドバイスをどうもありがとうございます！
リズム感と「こころと身体の感覚」。！
観念から離れ、もっと素直な気持ちでトライしてみます。
引き続きどうかよろしくお願いいたします。
苑子

苑子さま
度々ありがとうございます。
俳句は楽しむモノ。。苦しみながらですが。
だから気楽に、人生の楽しみにして頂ければと願っています。
ところで、いつまでも話題にして苑子さんには申し訳ないですが、苑子さんも皆さんも
お気づきかと思いますが、

→ 蒲公英の絮去りしのち風残る
→ 蒲公英の絮飛び去りて風残る

「一句に動詞は一つ」と言っていたのに、2つあるよ！でしょう？
上の句は「去りし」と「残る」、下の句は「飛び去りて」の複合動詞と「残る」

句意は通りでしたが、やっぱりモタモタしてSimple is bestになっていないですよね。

→ 蒲公英の絮そののちに風残る

これで動詞は1つになりました。

「そののちに」で飛び去った後と判る。。これが俳句のコツです。
納得かしら？

葉子

和さま&みなさま

ご丁寧にありがとうございます。恐縮です。
そんなに恐縮して気になさらないでください。
気にする必要はまったくありませんよ。

「最初はみんな、こんなもの」が始まりです。
初めては、だれもが初心者、そして初心者はみんな同じStepを踏んでいきます。
なかには国文科などで素地のある方もいますが、だからといって、ずっと良い句を作る
人で居られるとは限らないし、スランプも繰り返します。

和夫、葉子2人も俳人と呼ばれるには未だ未だ不足。。年季も少ないし、勉強不足も多々
あります。こうしてお互いに切磋琢磨する機会があり、続けていけるのです。今回も「は
のや」という言い方を学ぶことが出来ました。

私のMailも、最初からいろいろ書きすぎると混乱するばかりになるので、とても断片的
な書き方を敢えて心がけています。
それに、その時々的一句一句についての話題ですから、本のように系統だっではいませ
ん。だから判らないことも判りにくいこともあるかと思えます。それはその都度ご質問
なり反論なりして頂けば有り難いです。

お互い気長にお付き合い頂きますよう、お願いします。

いま夕方の定刻お出ましで鶯が啼いています。この2、3年我が家に来る鶯。。とても拙
いです。夏鶯になったのに。。鶉は啼き真似をするので、それかと疑う時も。飯島晴子の
「夏鶯さうかさうかと聞いて遣る」の句のような機会がないままです。
以前10年ほど来ていた鶯は「老鶯を上手上手と囀しけり」のすばらしい長啼きでした
が、代替わりしたみたいです。

葉子

葉子様
和です。

心が軽くなるお言葉をありがとうございます。

今日は東京にいて、久しぶりに事務所にきました。
すこんと青い空が広がり、暑さも気持ちの良い一日でした。
鶯が遊びに来る庭がないのが残念ですが、近くを歩いていたら、アスファルトの上を蝶の影が横切って行きました。

佳代さんの「黒き影鳥居に残す夏の蝶」は、垂直面に映る影で、私が見ているのは水平面に映る影だなあ、などと思いながら、暫し、蝶々の影を追いかけてきました。

日常の風景のなかに、ふと、みなさんの句が浮かんだのは初めてでした。
もっとたくさんの方の句を知って、様々なシーンで浮かぶようになりたいものです。

余談ですが、一乗寺に、小さな小さな作業場を借りました。
まだ家具も何もないのですが、部屋から大文字山が綺麗に見えるのと、1階の共有スペースにマロニエの木があるのが、とても楽しい場所です。

俳句に詠めるように、佳い時間を過ごしたいと思います。

葉子先生

動詞はひとつの件、なるほどなるほど！
納得であります！
皆まで語らず、余白の余韻が良いですね。
そのこ

和夫です。
句会報下記のようにしました。
最終確認です。
万一ちがっていたら、今日25時までをお願いします。

氷室学習メール句会	五月	
新緑の眼下に別府湾光る		和
石灯籠並みある隙の子鹿の目		佳代
朧々と夏霧昇る東山		苑子
新緑の山見るたびに旅のこと		年男
春の雨遠くの山の消え失せて		智子
駄菓子屋に来る子少し燕の子		春菜
初夏の朝晴れ上がり宮参り		裕子
菖蒲湯のけふは着物と致たさうか	真紀子	
父逝くや父の愛せし若葉濃き		未緒
薫風や鳥と競うて草スキー		美鈴

藤の香や母の臥しゐるところまで 惠
まつすぐな日の出の帯や春の海 由里子
山藤にからめとられし大樹かな 陽一
老鶯と呼べど若啼きありにけり 葉子
学名に「雑草」は無し昭和の日 和夫

和夫先生 惠です。

昨日締切までに和夫先生に送ったつもりだったのですが、なぜか年男さん1人宛に返信設定になっていたのに今気づきました。変更させて下さいますか。下記再送します。お手数掛けます。

いちめんに薨の光春の風 惠

宜しく申し上げます。

葉子先生に添削していただいた句(藤の香や母の臥しゐるところまで)は素敵に美しいのですが、母が病気だといいたくなくて、悩んだ結果こちらの句にさせていただきます。ごめんなさい。宜しく申し上げます。

惠

和夫です。

句会報の最終結果です。

氷室学習メール句会 五月

新緑の眼下に別府湾光る	和
石灯籠並みある隙の子鹿の目	佳代
朧々と夏霧昇る東山	苑子
新緑の山見るたびに旅のこと	年男
春の雨遠くの山の消え失せて	智子
駄菓子屋に来る子少なし燕の子	春菜
初夏の朝晴れ上がり宮参り	裕子
菖蒲湯のけふは着物と致たさうか	真紀子
父逝くや父の愛せし若葉濃き	未緒
薫風や鳥と競うて草スキー	美鈴
いちめんに薨の光春の風	惠
まつすぐな日の出の帯や春の海	由里子
山藤にからめとられし大樹かな	陽一
老鶯と呼べど若啼きありにけり	葉子

学名に「雑草」は無し昭和の日 和夫

苑子さま

ありがとうございます。

ところで、みなさま

葉子に「先生」はナンをお願いしたいです。

和夫はいろんな立场上仕方がないでしょうけれど、私は、皆さま同様に葉子さんでお願いします。

高校で「先生」をやったことがあります。俳句のお仲間として、どなたにもお願いしていますので、今後よろしくお願ひします。

葉子

ここで第2回学習メール句会の修了です。

毎月1回の目標です。

編集・発行

氷室

氷室俳句会主宰

尾池和夫

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-1098 尾池方

FAX 0774-33-4598

E-mail: oike-kazuo@nifty.com